



*The Japanese
Society of
Toxicology*

**Vol. 46 No. 5
October 2021**

毒性学ニュース

Toxicology News

一般社団法人日本毒性学会

The Japanese Society of Toxicology

毒性学ニュース Contents

| | |
|---|----|
| 日本毒性学会からのお知らせ | |
| 日本毒性学会理事監事 | 57 |
| 日本毒性学会各種委員会委員長 | 57 |
| 2021年度一般社団法人日本毒性学会 評議員会・社員総会報告 | 58 |
| 2020年度事業報告／ | |
| 2020年度収支計算書・正味財産増減計算書・貸借対照表・財産目録・注記／ | |
| 2021年度事業計画書／2021年度予算書／2021年度新功労会員一覧／ | |
| 2021年度名誉トキシコロジスト一覧／2021年度新評議員一覧／ | |
| 2021年度田邊賞受賞論文一覧／2021年度ファイザー賞受賞論文一覧／ | |
| 2021年度学会賞・佐藤哲男賞（国際貢献賞）・学会貢献賞・奨励賞および技術賞受賞者一覧 | |
| 「学会賞を受賞して」 広瀬 明彦 | 79 |
| 「佐藤哲男賞（国際貢献賞）を受賞して」 黒川 雄二 | 80 |
| 「奨励賞を受賞して」 織田 進吾 | 81 |
| 「学会貢献賞を受賞して」 久田 茂 | 81 |
| 「田邊賞を受賞して」 宮澤 正明, 久木 友花, 天野 雄斗 | 82 |
| 「ファイザー賞を受賞して」 渡 隆爾, 坂本 義光, 竹田 修三, 瀬川 雅博 高橋 勉, Tin Tin Win Shwe | 83 |
| 「技術賞を受賞して」 西條 拓, 青木 重樹 | 86 |
| 第48回日本毒性学会学術年会報告 | 88 |
| 第48回日本毒性学会学術年会要旨集の販売について | 90 |
| 第49回日本毒性学会学術年会のご案内（第2報） | 91 |
| 2022年度日本毒性学会特別賞候補者推薦要領 | 92 |
| 2022年度日本毒性学会学会賞候補者推薦要領 | 93 |
| 2022年度日本毒性学会奨励賞候補者推薦要領 | 94 |
| 2022年度日本毒性学会佐藤哲男賞（国際貢献賞）候補者推薦要領 | 95 |
| 日本毒性学会教育委員会からのお知らせ（第5報） | 96 |
| 米国毒性学会（SOT）教育コースへの派遣者公募 | 98 |

一般社団法人日本毒性学会の定款および規程類について

日本毒性学会理事監事

(任期：2020年社員総会～2022年社員総会)

●理事長

菅野 純 国立医薬品食品衛生研究所

●理事

青木 豊彦 (株) DIMS 医科学研究所
 上原 孝 岡山大学
 小野 敦 岡山大学
 鍛冶 利幸 東京理科大学
 北嶋 聡 国立医薬品食品衛生研究所
 熊谷 嘉人 筑波大学
 古武弥一郎 広島大学
 児玉 晃孝 EA ファーマ (株)
 小林 章男 日本たばこ産業 (株)
 佐藤 雅彦 愛知学院大学

鈴木 睦 協和キリン (株)
 高橋 祐次 国立医薬品食品衛生研究所
 角崎 英志 (株) 新日本科学
 苗代 一郎 シミックホールディングス (株)
 平林 容子 国立医薬品食品衛生研究所
 藤原 泰之 東京薬科大学
 宮脇 出 大日本住友製薬 (株)
 森 和彦 第一三共 RD ノバーレ (株)
 吉成 浩一 静岡県立大学

●監事

天野 幸紀 興和 (株)
 務台 衛 (株) LSIM 安全科学研究所

日本毒性学会各種委員会委員長

(任期：2020年社員総会～2022年社員総会)

●印：常置委員会 ○印：小委員会

●理事長

菅野 純

●総務委員会

高橋 祐次
 ○連携小委員会
 北嶋 聡
 ○評議員選考小委員会
 佐藤 雅彦
 ○名誉会員および功労会員選考委員会
 高橋 祐次
 ○指針値検討小委員会
 広瀬 明彦
 ○企画戦略小委員会
 宮脇 出

●財務委員会

青木 豊彦

●編集委員会

鍛冶 利幸
 ○JTS 編集委員会
 鍛冶 利幸
 ○FTS 編集委員会
 永沼 章
 ○Executive Editor 小委員会
 永沼 章
 ○田邊賞選考小委員会
 諫田 泰成

●教育委員会

鈴木 睦
 ○生涯教育小委員会
 鈴木 睦

○基礎講習会小委員会

橋本 清弘

○認定試験小委員会

福島 民雄

●学術広報委員会

児玉 晃孝
 ○学会賞等選考小委員会
 堀井 郁夫
 ○佐藤哲男賞選考小委員会
 熊谷 嘉人
 ○特別賞等選考小委員会
 熊谷 嘉人
 ○技術賞選考小委員会
 宮脇 出
 ○日化協 LRI 賞選考小委員会
 北嶋 聡
 ○学術小委員会
 石塚真由美
 ○広報小委員会
 児玉 晃孝

◆IUTOX

熊谷 嘉人
 菅野 純

◆ASIATOX

小椋 康光

◆日本学会会議担当

石塚真由美

2021年度 一般社団法人日本毒性学会 評議員会・社員総会報告

会 期：2021年7月8日（木）13：30～14：50
 会 場：神戸国際会議場 国際会議室 301（第1会場）
 ならびに Webex によるハイブリッド開催
 議 長：福井英夫（第48回学術年会長）
 社員（一般会員および学生会員）数：2,416名
 社員出席者数：85名（委任状数：1,357通）
 評議員数：287名
 評議員出席数：107名（現地52名，WEB55名）

13時30分開会が宣せられ、定款第23条に基づき福井第48回学術年会長が議長となった。また定款第24条に定める社員総会成立要件の定足数（総社員数の1/2以上）に達したことが報告され、2021年度一般社団法人日本毒性学会 評議員会・社員総会が開催され議事に入った。なお、議事に先立ち、本評議員会・社員総会は Web 会議システムを用いて開催することを宣言し、Web 会議システムによる出席者の音声即時に他の出席者に伝達され、出席者が一堂に会するのと同様に適時適確な意思表示が相互にできる状態になっていることを確認した。

I. 審議・承認事項

- 第1号議案 2020年度事業報告
 菅野理事長より、2020年度の事業について報告があり承認された。
- 第2号議案 2020年度決算および監査報告
 青木財務委員長より、2020年度の収支決算について報告があった。務台監事より、学会の事業および会計が適切に行われているとの監査報告があり、収支決算は原案通り承認された。
- 第3号議案 新名誉会員・功労会員の推薦
 菅野理事長より、新名誉会員なし・新功労会員2名を推薦する旨、報告され承認された。
- 第4号議案 新評議員の推薦・現評議員の再任
 菅野理事長より、新評議員として27名を推薦することが提案され承認された。また、評議員の2021年度の再任（201名）についても承認された。

第5号議案 第51回学術年会長の推戴
 菅野理事長より、第51回学術年会長として上原孝先生（岡山大学）を推薦する旨、提案があり承認された。

II. 報告事項

- 2021年度事業計画
 菅野理事長より、2021年度事業計画について報告があった。
- 2021年度予算
 青木財務委員長より、2021年度収支予算について報告があった。
- 教育委員会
 鈴木教育委員長より、米国毒性学会教育コースへの会員派遣と、名誉トキシコロジスト表彰者(2名)、認定トキシコロジスト総会、第24回・第25回基礎教育講習会、第22回生涯教育講習会及び第24回認定トキシコロジスト認定試について報告があった。認定試験は上限90名として事前申込を締め切り、9月26日に予定通り実施することで準備を進めている。
- 編集委員会
 鍛冶編集委員長より、2つの学会誌（The Journal of Toxicological Sciences 及び Fundamental Toxicological Sciences）の発行状況、論文掲載数、インパクトファクター、2021年度田邊賞及びフェイザー賞受賞論文が報告された。加えて、5年間の科研費申請が採択されたと報告があった。
- 学術広報委員会
 児玉学術広報委員長より、学術小委員会および広報小委員会からの報告について説明があった。また、2021年度特別賞、学会賞、佐藤哲男賞（国際貢献賞）、学会貢献賞、奨励賞、技術賞受賞者、日化協 LRI 賞受賞者が報告された。
- 連携小委員会
 北嶋連携小委員会委員長より、国内外関連学会との連携について報告と紹介があった。

| | | |
|---|------|-------|
| 7. 指針値検討小委員会 | 議 長 | 福井 英夫 |
| 広瀬指針値検討小委員会委員長より、現在の活動ならびに検討事項の概要について報告があった。 | 出席理事 | 菅野 純 |
| | 同 | 青木 豊彦 |
| 8. その他 | 同 | 上原 孝 |
| 1) IUTOX | 同 | 小野 敦 |
| 熊谷 IUTOX 担当より、IUTOX 関連の今後の開催予定について報告があった。 | 同 | 鍛冶 利幸 |
| | 同 | 北嶋 聡 |
| 2) ASIATOX | 同 | 熊谷 嘉人 |
| 小椋 ASIATOX 担当より、次回の ASIATOX が 2021 年 9 月に中国・杭州ならびに WEB にて開催予定され、演題の締切が 8 月 31 日に延長している旨、報告があった。 | 同 | 古武弥一郎 |
| | 同 | 小林 章男 |
| | 同 | 佐藤 雅彦 |
| | 同 | 鈴木 睦 |
| | 同 | 高橋 祐次 |
| Ⅲ. 学術年会 | 同 | 角崎 英志 |
| | 同 | 苗代 一郎 |
| 1. 第 48 回学術年会報告 | 同 | 藤原 泰之 |
| 福井第 48 回学術年会長より、現況報告と会員諸氏のご協力への感謝表明があった。 | 同 | 宮脇 出 |
| | 同 | 森 和彦 |
| | 同 | 吉成 浩一 |
| 2. 第 49 回学術年会長挨拶 | | |
| 石塚第 49 回学術年会長より、次期学術年会の開催について説明があった。 | | |
| 3. 第 50 回学術年会報告 | | |
| 北嶋第 50 回学術年会長より、次々期学術年会の開催について説明があった。 | | |

以上の各議案についての審議・報告を終了した後、名誉会員・功労会員証授与式、各賞授賞式を執り行った。

14 時 50 分、以上をもってすべての議事を終了したことが確認され、議長が閉会を宣した。

上記の決議を明確にするため、定款第 26 条に従いこの議事録を作成し、議長及び出席理事の全員がこれに記名押印する。

(資料1)

一般社団法人日本毒性学会 2020 年度事業報告

[1] 事業の部

概要

2020 年度は菅野理事長任期 1 年目の執行体制で学会を運営した。主な事業は、認定トキシコロジスト試験を除き、COVID-19 予防対策のため web により開催した。

第 47 回学術年会は初の web 開催の形式を取り、主催者の適切な工夫により、参加者数は例年の 90% を確保し、収支も黒字となったことから、コロナ禍の影響は最小限に留められたものと考えられる。なお、認定トキシコロジスト総会と一般の方を対象とした市民公開セミナーはやむなく中止した。生涯教育講習会は web 開催したところ、受講者が微増し、基礎教育講習会は web 配信とし例年並みを維持した。認定トキシコロジスト試験（日本語と英語）は感染予防対策を施した試験会場にて実施し、例年並みの受験者数を維持した。今年度から新たな試みとして、PDE (permitted daily exposure) /OEL (occupational exposure limit) 等の毒性評価値の設定に関する教育を目的とした毒性評価値設定講習会を web 開催し、想定を超える約 130 名の参加を得た。Web 開催による医薬品毒性機序研究部会主催の第 3 回医薬品毒性機序研究会の参加人数は 103 名と、対面で開催された第 1 回 (173 名)、第 2 回 (192 名) に比べて減少したことからコロナ禍の影響を受けたと考えられた。

学会誌 (JTS・FTS) 及び毒性学ニュースは例年通りの刊行数が維持された。日本中毒学会との連携強化の一環として、JTS・FTS を日本中毒学会の公式英文誌とすること、及び、これに伴う JTS・FTS の投稿規程の改訂が、総務委員会および理事会において承認された。

学会賞を始めとする各賞の選考委員会も web 開催により開催され、特段の支障なく選考作業が完了した。2019 年に設立された佐藤哲男賞は、本年度より同博士の国際的及び学術的貢献に敬意を表しての「国際貢献賞」とした。加えて、本年度より、本会における学会活動の貢献に対しての「学会貢献賞」を設立した。JSOT のホームページの利用を更に促進す

る目的で、メールマガジンの配信を開始した。また、ホームページの「毒性学コミュニケーション」欄の学術的な内容の向上を目的として、現行の「用語解説」の発展的充実のための、「毒性学用語解説」を作成する企画がトピックス WG により開始された。

国際連携活動としては、2020 年 9 月に予定されていた ASIATOX は 2021 年 10 月に延期されたが、現在、その企画提案を進めている。2020 年は中止となった米国毒性学会 (SOT) 学術年会は 2021 年は 3 月に web 開催され、SOT-JSOT 合同シンポジウムの開催、CE コースへの学会員 2 名の派遣、Virtual ToxExpo Exhibits への JSOT ブースの開設、といった例年通りの活動を維持した。但し、例年そこで開催される SOT の会長群 (SOT Presidential Chain) と JSOT の執行部との会合は、学術年会とは別途に 5 月に Web 開催した。その際に、更なる連携強化を目的とした SOT-JSOT 覚書 (MOU) 締結に向けてのドラフトを提示した結果、これを受けて SOT 側が内容を修正する事となった。IUTOX については、来年度オランダで開催される ICT2022 の企画提案の作業を進めている。

企画戦略小委員会においては、パンデミック発生時における事業継続計画、とりわけ重要度の高い日本毒性学会学術年会の開催に焦点を当てた計画書 (BCP) の作成を大きな目標として活動しその第 1 版の完成に至った。

2021 年 7 月開催予定の第 48 回学術年会は神戸における現地開催と web によるハイブリッド開催として実施することを 2020 年 12 月に最終決定し準備を進めることとした。

尚、コロナ禍により学会収入が減少するのではないかと、また、実際に第 49 回・50 回の学術年会の会場予約に際して、異例の、前金に当たる契約金の請求があり、これに学会本部が対応する事としたことから、2020 年度は赤字となるのではないかと危惧が生じていたが、web 開催等による会場費や旅費を始めとする支出の減少が補完する状況となり、2020 年度の決算は黒字となった。

2020年度事業の詳細は以下の通りである。

(敬称略)

1. 会員の異動

(1) 会員数 (2021年4月30日)

| | | |
|---------------------------|----|--------|
| 一般会員 | 国内 | 1,912名 |
| | 海外 | 25名 |
| 評議員 | 国内 | 299名 |
| | 海外 | 0名 |
| 学生会員 | 国内 | 131名 |
| | 海外 | 0名 |
| 名誉会員 | 国内 | 26名 |
| 功労会員 | 国内 | 24名 |
| 賛助会員 | | 51件 |
| (ダイヤモンド1件 プラチナ2件 ゴールド48件) | | |

(2) 名誉会員・功労会員推薦

| | |
|-------|----|
| 新名誉会員 | 0名 |
| 新功労会員 | 3名 |

2. 会議の開催

| | |
|-----|-------------------------|
| 理事会 | <u>2020年5月15日</u> |
| | <u>2020年6月28日</u> |
| | <u>2020年6月30日</u> |
| | <u>2020年7月22日</u> |
| | <u>2020年9月6日</u> |
| | <u>2020年10月22日 (2回)</u> |
| | <u>2020年12月9日</u> |
| | <u>2021年3月5日</u> |
| | <u>2021年4月24日</u> |
| | ※下線はメールによる持ち回り開催 |

社員総会・評議員会

| | |
|--|------------------|
| | 2020年6月29日 (第一部) |
| | 2020年7月1日 (第二部) |

3. 学術集会・講習会の開催

(1) 第47回日本毒性学会学術年会
2020年6月29日～7月1日 Web開催
年会長：広瀬 明彦 (国立医薬品食品衛生研究所)
参加者：1,239名 (招待者含む)

(2) 第21回日本毒性学会生涯教育講習会
2020年6月28日 WEB開催
受講者：124名

(3) 第18回市民公開セミナー：中止

(4) 第1回毒性評価値設定講習会
(指針値検討小委員会・教育委員会)

2020年10月2日 (金)
参加者：129名

(5) 生命金属に関する合同年会 (ConMetal 2020)
(生体金属部会主催)

2020年11月6日～7日
WEB開催 (メタロミクス研究フォーラム,
日本セレン研究会との合同)
実行委員長：小椋康光
(千葉大学大学院 薬学研究院)
参加者：164名

(6) 第3回医薬品毒性機序研究会
(医薬品毒性機序研究部会主催)

2021年1月14日～15日, WEB開催
実行委員長：山田久陽 (大正製薬株式会社)
参加者：103名

(7) 第24回日本毒性学会基礎教育講習会
2021年4月下旬～認定トキシコロジスト試験
前まで WEB開催 (4/26～9/24)
受講申込：129名
※オリンピックに伴う宿泊施設確保困難のため
講習会を8月から前倒しとしたが、新型
コロナウイルス感染症予防対策のため動画
研修 (WEB配信) とした

4. 認定試験の実施

第23回日本毒性学会認定トキシコロジスト認定試験
2020年9月27日 昭和大学旗の台キャンパス
出願者：64名 認定者：25名

5. 学会誌・その他の刊行物の刊行

The Journal of Toxicological Sciences
45巻5号～46巻4号
(43巻よりオンライン化。3ヶ月毎に合併号を小部数印刷)
Fundamental Toxicological Sciences
7巻4号～7巻6号, 8巻1号～8巻2号
毒性学ニュース
45巻3号～6号, 46巻1号～2号

6. 賞の授与

- (1) 2020 年度特別賞受賞者
受賞者なし

- (2) 2020 年度学会賞受賞者 (1 名)

渋谷 淳 (東京農工大学 獣医病理学研究室)
研究課題名: 発達神経毒性検出と発がん性予測にかかる in vivo 簡易評価に関する開発研究

- (3) 2020 年度佐藤哲男記念賞 (学術貢献賞) 受賞者 (1 名)

野村 護 (株式会社イナリサーチ)
授賞タイトル: 毒性試験従事者の基礎教育の実践と日本毒性学会への導入及び資格制度の確立: リスクの統合的評価法の拡充

- (4) 2020 年度奨励賞受賞者 (3 名)

緒方文彦 (近畿大学 薬学部)
研究課題名: 水系環境中からの有害物質の除去能と毒性発現防止に関する研究

栗田尚佳 (岐阜薬科大学 薬物治療学研究室)
研究課題名: 胎生期化学物質曝露による次世代の毒性発現メカニズムの研究

平尾雅代 (広島国際大学 薬学部)
研究課題名: ビスフェノール A 及びその関連化合物による内分泌かく乱影響の解明: エストロゲン受容体 β (ER β) を介した新規毒性機構

- (5) 2020 年度技術賞受賞者 (3 名)

生野達也 (中外製薬株式会社 研究本部)
研究課題名: ヒト肥満細胞としての機能を有するヒト iPS 細胞由来肥満細胞の作製

出口清香 (大阪大学大学院薬学研究科)
研究課題名: ゲノム編集技術を用いた薬物代謝酵素 CYPs を欠損したヒト iPS 細胞由来肝細胞パネルの構築と毒性試験応用

山本裕介 (富士フイルム株式会社 ESG 推進部 環境・品質マネジメント部 安全性評価センター)

研究課題名: 新規 in chemico 皮膚感作性試験 ADRA 法の開発

- (6) 2020 年度田邊賞受賞論文 (4 題)

論文: Methylmercury-induced neural degeneration in rat dorsal root ganglion is associated with the accumulation of microglia/macrophages and the proliferation of Schwann cells

著者: Yo Shinoda, Shunsuke Ehara, Satoshi Tatsumi, Eiko Yoshida, Tsutomu Takahashi, Komyo Eto, Toshiyuki Kaji, Yasuyuki Fujiwara

受賞者: 篠田 陽 (東京薬科大学 薬学部)
荏原俊介 (東京薬科大学 薬学部)
巽 啓 (シミック株式会社 (旧: 東京薬科大学 薬学部))
吉田映子 (東京理科大学 薬学部)
高橋 勉 (東京薬科大学 薬学部)
鍛冶利幸 (東京理科大学 薬学部)
藤原泰之 (東京薬科大学 薬学部)

論文: Applicability of amino acid derivative reactivity assay for prediction of skin sensitization by combining multiple alternative methods to evaluate key events

著者: Yusuke Yamamoto, Masaharu Fujita, Sayaka Wanibuchi, Ayako Sato, Miyuki Akimoto, Yasuhiro Katsuoka, Atsushi Ono, Toshihiko Kasahara

受賞者: 山本裕介 (富士フイルム株式会社 ESG 推進部 環境・品質マネジメント部 安全性評価センター)

藤田正晴 (富士フイルム株式会社 ESG 推進部 環境・品質マネジメント部 安全性評価センター)

鰐淵彩花 (富士フイルム株式会社 ESG 推進部 環境・品質マネジメント部 安全性評価センター)

小野 敦 (岡山大学大学院 医歯薬学総合研究科・薬学系 毒性学研究室)

笠原利彦 (富士フイルム株式会社 ESG 推進部 環境・品質マネジメント部 安全性評価センター)

論文: Human induced pluripotent stem cell-derived mast cells useful for in vitro mast cell activation assay exhibiting phenotypes and morphological characteristics of human mast cells

著者: Tatsuya Ikuno, Shunsuke Ito, Tomoaki Inoue

受賞者: 生野達也 (中外製薬株式会社 研究本部 創薬 ADMET 研究部)

伊藤俊輔 (中外製薬株式会社 研究本部 創薬 ADMET 研究部)

井上智彰 (元・中外製薬株式会社)

論文: Cardiac safety assessment with motion field imaging analysis of human iPS cell-derived cardiomyocytes is improved by an integrated evaluation with cardiac ion channel profiling

著者: Takehito Isobe, Masaki Honda,

Ryuichi Komatsu, Mitsuyasu Tabo

受賞者: 磯部剛仁 (中外製薬株式会社 研究本部, トランスレショナリリサーチ本部)

本多正樹 (中外製薬株式会社 研究本部)

小松竜一 (中外製薬株式会社 研究本部)

田保充康 (中外製薬株式会社 研究本部)

(7) 2020 年度ファイザー賞受賞論文 (3 題)

論文: Tobacco nitrosamine NNK increases ALDH-positive cells via ROS-Wnt signaling pathway in A549 human lung cancer cells

著者: Naoya Hirata, Shigeru Yamada,

Yuko Sekino, Yasunari Kanda

受賞者: 平田尚也 (国立医薬品食品衛生研究所 薬理部)

山田 茂 (国立医薬品食品衛生研究所 薬理部)

関野祐子 (東京大学 大学院 薬学系研究科 ヒト細胞創薬学寄付講座)

諫田泰成 (国立医薬品食品衛生研究所 薬理部)

論文: Characterization of human iPS cell-derived cardiomyocyte sheets as a model to detect drug-induced conduction disturbance

著者: Hiroko Izumi-Nakaseko, Yuji Nakamura,

Takeshi Wada, Kentaro Ando,

Yasunari Kanda, Yuko Sekino,

Atsushi Sugiyama

受賞者: 中瀬古 (泉) 寛子

(東邦大学医学部薬理学講座)

和田 剛 (東邦大学医学部薬理学講座)

諫田泰成 (国立医薬品食品衛生研究所 薬理部)

関野祐子 (東京大学 大学院 薬学系研究科 ヒト細胞創薬学寄付講座)

杉山 篤 (東邦大学医学部薬理学講座)

論文: Chronotoxicity of bromobenzene-induced hepatic injury in mice

著者: Hiroki Yoshioka, Tsunemasa Nonogaki,

Nobuyuki Fukuishi, Yasuro Shinohara,

Gi-Wook Hwang, Katsumi Ohtani,

Nobuhiko Miura

受賞者: 吉岡弘毅 (The University of Texas Health Science Center at Houston (UTHealth) (旧 金城学院大学薬学部))

福石信之 (金城学院大学 薬学部)

篠原康郎 (金城学院大学 薬学部)

黄 基旭 (東北医科薬科大学 薬学部)

大谷勝己 (労働安全衛生総合研究所)

三浦伸彦 (横浜薬科大学 薬学部)

7. 賞の選考

(1) 2020 年度日化協 LRI 賞受賞者 (1 名)

角 大悟 (徳島文理大学薬学部 准教授)

研究課題名: 慢性ヒ素中毒の発症機構と生体応答に関する研究

8. 国際学会・会議への協力

(1) アジア毒性学会学術会議 (ASIATOX) (2020 年 9 月 23 日 ~ 26 日 Hangzhou, China) は、2021 年 10 月 20 日 ~ 23 日に延期された。

(2) 第 60 回 Society of Toxicology (SOT) 年会 (2021 年 3 月 12 日 ~ 26 日, WEB 開催) へ向けた準備を行い, Virtual ToxExpo Exhibits のブース対応を行った (3 月 15 日 ~ 25 日)。

(3) SOT との連携強化
第 60 回 SOT (2021 年 3 月 12 日 ~ 26 日, WEB 開催) への学会員派遣選考

吉川理恵 (Novartis Institutes for BioMedical Research)

田邊 思帆里 (国立医薬品食品衛生研究所安全性生物試験研究センター安全性予測評価部)

(4) IUTOX への活動協力

[2] 組織運営の部

1. 新名誉会員・新功労会員

一般社団法人日本毒性学会名誉会員・功労会員推薦規程に基づき、4名の新功労会員につき、2020年度評議員会・総会において、全推薦者が承認された。

2020年度日本毒性学会新功労会員一覧 (敬称略)

| 氏名 | 所属 |
|-------|----------|
| 中村 和市 | 北里大学 |
| 永沼 章 | 東北大学 |
| 姫野誠一郎 | 昭和大学 |
| 眞鍋 淳 | 第一三共株式会社 |

2. 新評議員及び評議員の再任

一般社団法人日本毒性学会評議員選出規程に基づき16名の新評議員候補者及び67名の評議員再任候補者につき、2020年度評議員会・総会において、全候補者が承認された。

2020年度日本毒性学会新評議員一覧 (敬称略)

| 氏名 | 所属 |
|-------|---------------------------------------|
| 越智 靖夫 | ファイザー R & D 合同会社 |
| 池田 孝則 | MSD 株式会社 |
| 豊田 武士 | 国立医薬品食品衛生研究所 |
| 魏 民 | 大阪市立大学大学院医学研究科 |
| 大塚博比古 | Axcelead Drug Discovery Partners 株式会社 |
| 武田 志乃 | 国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構 |
| 藤本 和則 | 第一三共株式会社 |
| 高橋 統一 | 日本たばこ産業株式会社 |
| 西村 泰光 | 川崎医科大学 |
| 田崎 雅子 | テルモ株式会社 |
| 於勢 佳子 | 住友化学株式会社 |
| 黒田 顕 | 小野薬品工業株式会社 |
| 北口 隆 | 日清食品ホールディングス株式会社 |
| 篠澤 忠紘 | 武田薬品工業株式会社 |
| 村上 雄一 | Axcelead Drug Discovery Partners 株式会社 |
| 松本 峰男 | 独立行政法人 医薬品医療機器総合機構 |

3. 第50回学術年会長

2020年度評議員会・総会において、第50回学術年会長が承認された。

第50回学術年会長：北嶋 聡
(国立医薬品食品衛生研究所)

4. 新名誉トキシコロジスト

日本毒性学会認定トキシコロジストの認定制度規程・日本毒性学会名誉トキシコロジスト表彰に関する細則の規程に基づき、1名の新名誉トキシコロジスト候補者につき、理事会において全候補者が承認され、2020年度評議員会・総会において了承された。

2020年度名誉トキシコロジスト一覧

(敬称略)

高島 宏昌

5. 新認定トキシコロジスト

日本毒性学会認定トキシコロジストの認定制度規程に基づき、第23回認定トキシコロジスト認定試験結果を審査し、合格と判定された25名の新認定トキシコロジスト候補者につき、理事会において全候補者が承認された。

第23回認定トキシコロジスト認定試験合格者一覧

(敬称略)

| | | |
|-------|-------|-------|
| 厚見 育代 | 池田 圭吾 | 石黒 司 |
| 上野 友也 | 小川 峻志 | 寒川 彰久 |
| 桐畑 佑香 | 草深 穂高 | 後藤 志麻 |
| 小林 亮介 | 齋木 翔太 | 齋藤 光芳 |
| 田原 春菜 | 田原 宥 | 内藤 崇 |
| 中島 直弓 | 中村 大地 | 成毛 裕子 |
| 野中 聖子 | 浜村 えり | 平田 朗 |
| 北條 幹 | 松村 一史 | 山内 敦子 |
| 山口 晃輝 | | |

※役員、各種委員会委員長及び学会事務局の詳細は附属明細書で記載する。

2020年度会務日誌

2020年5月7日：持ち回り理事会 (5月7日～5月15日)

2020年5月11日：生涯教育委員会小委員会

2020年6月3日：内部監査

2020年6月4日：外部監査

2020年6月9日：総務委員会

2020年6月17日：広報小委員会

2020年6月28日：理事会

2020年6月29日：評議員会、総会

2020年6月29日：理事会, 持ち回り理事会 (6月29日~6月30日)
 2020年6月30日：理事会
 2020年7月1日：評議員会, 総会 (臨時)
 2020年7月22日：持ち回り理事会 (7月15日~22日)
 2020年8月12日：総務委員会
 2020年8月25日：認定試験小委員会
 2020年8月27日：基礎教育講習会小委員会
 2020年9月6日：持ち回り理事会 (8月31日~9月6日)
 2020年9月8日：企画戦略小委員会
 2020年9月30日：認定試験小委員会
 2020年10月23日：持ち回り理事会 (10月16日~10月23日)
 2020年10月28日：認定試験小委員会
 2020年11月18日：トピックス WG
 2020年11月19日：教育委員会
 2020年12月3日：総務委員会
 2020年12月9日：持ち回り理事会 (12月4日~12月9日)
 2020年12月23日：トピックス WG
 2020年12月24日：企画戦略小委員会
 2020年12月25日：総務委員会
 2021年2月5日：田邊賞選考小委員会
 2020年2月5日：技術賞選考小委員会
 2021年2月15日：総務委員会
 2021年3月4日：トピックス WG
 2021年3月5日：理事会
 2021年3月17日：技術賞選考小委員会
 2021年4月15日：総務委員会
 2021年4月21日：持ち回り理事会 (4月15日~4月21日)
 註) 財務委員会, 連携小委員会, 評議員選考小委員会, Executive Editor 小委員会, 学会賞等選考小委員会, 特別賞等選考小委員会, 佐藤哲男記念賞選考小委員会, 日化協 LRI 賞選考小委員会については, e-mail 等により審議検討を行った。

一般社団法人日本毒性学会 2020 年度事業報告付属明細書
 (2020年5月1日~2021年4月30日)

1. 理事・監事 (理事長を含む) について

一般社団法人日本毒性学会の理事・監事 (理事長を含む) は, 以下の通り。

●理事長
 菅野 純 国立医薬品食品衛生研究所

●理事
 青木 豊彦 株式会社 DIMS 医科学研究所
 上原 孝 岡山大学

小野 敦 岡山大学
 鍛冶 利幸 東京理科大学
 北嶋 聡 国立医薬品食品衛生研究所
 熊谷 嘉人 筑波大学
 古武弥一郎 広島大学
 児玉 晃孝 EA ファーマ株式会社
 小林 章男 日本たばこ産業株式会社
 佐藤 雅彦 愛知学院大学
 鈴木 睦 協和キリン株式会社
 高橋 祐次 国立医薬品食品衛生研究所
 角崎 英志 株式会社新日本科学
 苗代 一郎 シミックホールディングス株式会社
 平林 容子 国立医薬品食品衛生研究所
 藤原 泰之 東京薬科大学
 宮脇 出 大日本住友製薬株式会社
 森 和彦 第一三共 RD ノバール株式会社
 吉成 浩一 静岡県立大学

●監事
 天野 幸紀 興和株式会社
 務台 衛 株式会社 LSIM 安全科学研究所

2. 委員会について

一般社団法人日本毒性学会の各委員会の委員長, 委員は以下の通り。

●総務委員会
 委員長 高橋 祐次 (国立医薬品食品衛生研究所)
 委員 青木 豊彦, 鍛冶 利幸, 鈴木 睦, 児玉 晃孝, 熊谷 嘉人
 オブザーバー 広瀬 明彦, 福井 英夫, 石塚真由美, 小椋 康光, 北嶋 聡

◆連携小委員会
 委員長 北嶋 聡 (国立医薬品食品衛生研究所)
 委員 小川久美子, 吉岡 靖雄, 上原 孝, 広瀬 明彦, 黄 基旭
 オブザーバー 堀井 郁夫, 吉田 武美

◆評議員選考小委員会
 委員長 佐藤 雅彦 (愛知学院大学)
 委員 小林 章男, 苗代 一郎, 古武弥一郎, 上原 孝

◆名誉会員および功労会員選考委員会 (委員非公開)
 委員長 高橋 祐次 (国立医薬品食品衛生研究所)

◆指針値検討小委員会
 委員長 広瀬 明彦 (国立医薬品食品衛生研究所)
 委員 市原 学, 北嶋 聡, 渋谷 淳, 古川 賢, 三島 雅之

◆企画戦略小委員会
 委員長 宮脇 出 (大日本住友製薬株式会社)
 委員 高橋 祐次, 青木 豊彦, 鈴木 睦, 小林 章男, 角崎 英志, 広瀬 明彦

●財務委員会
 委員長 青木 豊彦 (株式会社 DIMS 医科学研究所)
 副委員長 森 和彦 (第一三共 RD ノバール株式会社)

委員 藤原 泰之, 児玉 晃孝, 小林 章男

● 編集委員会

委員長 鍛冶 利幸 (東京理科大学)

副委員長 古武 弥一郎 (広島大学)

委員 青木 康展, 阿部 (富澤) 香織,

有蘭 幸司, 石井 祐次, 市原 学,

佐藤 雅彦, 渋谷 淳, 新開 泰弘,

神野 透人, 鈴木 雅実, 角 大悟,

曾根 秀子, 立花 研, 中川 一平,

中西 剛, 永沼 章, 中村 和市,

沼澤 聡, 根本 清光, 黄 基旭,

福島 民雄, 藤原 泰之, 三浦 伸彦,

務台 衛, 山田 久陽, 山手 丈至,

山本 千夏, 吉成 浩一, 鰐淵 英機

◆ JTS 編集委員会

委員長 鍛冶 利幸 (東京理科大学)

◆ FTS 編集委員会

委員長 永沼 章 (東北大学)

◆ Executive Editor 小委員会

委員長 永沼 章 (東北大学)

◆ 田邊賞選考小委員会 (副委員長以下非公開)

委員長 諫田 泰成 (国立医薬品食品衛生研究所)

● 教育委員会

委員長 鈴木 睦 (協和キリン株式会社)

アドバイザー 広瀬 明彦, 吉成 浩一

◆ 生涯教育小委員会

委員長 鈴木 睦 (協和キリン株式会社)

委員 五十嵐勝秀, 石塚真由美, 近藤 美和,

真田 尚和, 黄 基旭, 堀 妃佐子,

義澤 克彦

◆ 基礎講習会小委員会

委員長 高崎 渉 (第一三共株式会社)

2020年10月31日まで

橋本 清弘 (武田薬品工業株式会社)

2020年11月1日から

委員 朝倉 省二, 大塚 まき, 真木 一茂,

古川 賢, 和久井 信, 高崎 渉

◆ 認定試験小委員会 (副委員長以下非公開)

委員長 古川 賢 (日産化学株式会社)

2020年10月31日まで

福島 民雄 (塩野義製薬株式会社)

2020年11月1日から

● 学術広報委員会

委員長 児玉 晃孝 (EA ファーマ株式会社)

◆ 学会賞等選考小委員会 (委員非公開)

委員長 堀井 郁夫 (ファイザー)

◆ 佐藤哲男賞選考小委員会 (委員非公開)

委員長 熊谷 嘉人 (筑波大学)

◆ 特別賞等選考小委員会 (委員非公開)

委員長 熊谷 嘉人 (筑波大学)

◆ 技術賞選考小委員会 (委員非公開)

委員長 宮脇 出 (大日本住友製薬株式会社)

◆ 日化協 LRI 賞選考小委員会 (委員非公開)

委員長 北嶋 聡 (国立医薬品食品衛生研究所)

◆ 学術小委員会

委員長 石塚真由美 (北海道大学)

委員 天野 幸紀, 森 和彦, 高橋 祐次,

藤原 泰之, 吉成 浩一

◆ 広報小委員会

委員長 児玉 晃孝 (EA ファーマ株式会社)

委員 黒岩 有一, 宅見あすか, 田中 直子

★ その他関連の委員会

○ IUTOX

Executive Committee, Director

熊谷 嘉人 (筑波大学)

Nominating Committee, Chair

菅野 純 (国立医薬品食品衛生研究所)

○ ASIATOX

ASIATOX Council

小椋 康光 (千葉大学)

○ 日本学術会議

委員 石塚真由美

3. 学術年会長について

一般社団法人日本毒性学会の日本毒性学会学術年会の学術年会長は、以下の通り。

● 第45回日本毒性学会学術年会の学術年会長
務台 衛 (田辺三菱製薬株式会社)

● 第46回日本毒性学会学術年会の学術年会長
姫野誠一郎 (徳島文理大学薬学部)

● 第47回日本毒性学会学術年会の学術年会長
広瀬 明彦 (国立医薬品食品衛生研究所)

● 第48回日本毒性学会学術年会の学術年会長
福井 英夫 (Axcelead Drug Discovery Partners 株式会社)

● 第49回日本毒性学会学術年会の学術年会長
石塚真由美 (北海道大学大学院獣医学研究院)

● 第50回日本毒性学会学術年会の学術年会長
北嶋 聡 (国立医薬品食品衛生研究所)

4. 事務局 (2021年4月30日現在)

〒100-0003 東京都千代田区一ツ橋 1-1-1

パレスサイドビル

(株) 毎日学術フォーラムに事務委託

以上

(資料2)

一般社団法人 日本毒性学会 2020年度収支計算書

(2020年5月1日～2021年4月30日)

(単位：円)

| | 2020年度予算 | 2020年度決算 | 差異(決算-予算) | 備考 |
|-----------------------|-------------------|-------------------|--------------------|--------------------------------|
| [経常収入の部] | | | | |
| 1. 会費収入 | 23,168,700 | 23,120,000 | △ 48,700 | |
| 一般会員会費収入 | 13,657,500 | 13,995,000 | 337,500 | 当年度7,000円×1,828名+過年度分 |
| 評議員会費収入 | 2,912,000 | 2,962,000 | 50,000 | 当年度10,000円×285名+過年度分 |
| 学生会員収入 | 349,200 | 413,000 | 63,800 | 当年度3,000円×112名+過年度分 |
| 賛助会員会費収入 | 6,250,000 | 5,750,000 | △ 500,000 | |
| 2. JTS 発行事業収入 | 9,072,064 | 10,057,952 | 985,888 | |
| 広告料収入 | 1,023,000 | 574,400 | △ 448,600 | 会誌・パンナー・求人広告料 |
| 別刷料・掲載料収入 | 7,838,564 | 9,326,052 | 1,487,488 | VOL.45-4・5・6～VOL.46-1・2・3 |
| 定期購読料収入 | 200,000 | 140,000 | △ 60,000 | |
| BN 販売収入 | 10,500 | 17,500 | 7,000 | |
| 3. FTS 発行事業収入 | 6,600,000 | 5,490,141 | △ 1,109,859 | |
| 科研費収入 | 3,900,000 | 3,900,000 | 0 | |
| FTS掲載料収入 | 2,700,000 | 1,590,141 | △ 1,109,859 | |
| 4. 学術集会事業収入 | 20,263,000 | 24,387,116 | 4,124,116 | |
| 学術集会収入 | 20,263,000 | 24,387,116 | 4,124,116 | 第47回年会 |
| 学術集会寄付収入 | 0 | 0 | 0 | 第47回年会 |
| 5. 部会事業収入 | 4,519,005 | 1,836,610 | △ 2,682,395 | |
| 部会活動収入 | 4,519,005 | 1,836,610 | △ 2,682,395 | |
| 6. 認定事業収入 | 8,440,000 | 9,483,000 | 1,043,000 | |
| 認定TOX資格収入 | 5,250,000 | 4,140,000 | △ 1,110,000 | 未開催 |
| 認定TOX総会収入 | 0 | 0 | 0 | |
| 基礎教育講習会収入 | 2,274,000 | 3,415,000 | 1,141,000 | |
| 生涯教育講習会収入 | 366,000 | 538,000 | 172,000 | |
| リスクアセッサー講習会収入 | 550,000 | 1,390,000 | 840,000 | |
| 7. 補助金収入 | 500,000 | 500,000 | 0 | |
| ファイザー賞賞金収入 | 500,000 | 500,000 | 0 | |
| 望月喜多司賞賞金収入 | 0 | 0 | 0 | |
| 8. 受取利息 | 500 | 830 | 330 | |
| 9. 雑収入 | 400,000 | 1,753,071 | 1,353,071 | 著作物複写使用料等 |
| 経常収入合計 | 72,963,269 | 76,628,720 | 3,665,451 | |
| [経常支出の部] | | | | |
| 1. JTS 発行事業支出 | 10,150,000 | 9,126,811 | △ 1,023,189 | |
| 会誌発行費 | 9,800,000 | 9,002,606 | △ 797,394 | VOL.45-4・5・6～VOL.46-1・2・3(合併号) |
| 会誌発送費 | 350,000 | 124,205 | △ 225,795 | VOL.45-4・5・6～VOL.46-1・2・3(合併号) |
| 2. FTS 発行事業支出 | 3,400,834 | 3,895,032 | 494,198 | |
| 編集費 | 2,230,333 | 2,915,328 | 684,995 | |
| 関連諸経費 | 1,170,501 | 979,704 | △ 190,797 | |
| 3. 表彰事業支出 | 2,985,000 | 2,418,116 | △ 566,884 | |
| ファイザー賞支出 | 500,000 | 497,850 | △ 2,150 | 賞金・楯 |
| 望月喜多司賞支出 | 0 | 0 | 0 | |
| 田邊賞支出 | 750,000 | 667,036 | △ 82,964 | 賞金・楯 |
| 学会賞・特別賞・奨励賞・佐藤哲男記念賞支出 | 1,265,000 | 901,530 | △ 363,470 | 賞金・楯 |
| 技術賞支出 | 350,000 | 326,400 | △ 23,600 | 賞金・楯 |
| 記念品費 | 120,000 | 25,300 | △ 94,700 | |
| 4. 学術集会事業支出 | 22,708,351 | 24,905,365 | 2,197,014 | |
| 学術集会支出 | 20,508,351 | 24,387,116 | 3,878,765 | 第47回学術年会 |
| 学術集会補助金 | 2,200,000 | 518,249 | △ 1,681,751 | 第47回学術年会 補助金返金有 |
| 5. セミナー事業支出 | 0 | 0 | 0 | |
| 市民公開セミナー補助金 | 0 | 0 | 0 | 第47回学術年会 補助金一部返金有 |
| 6. 部会事業支出 | 4,470,000 | 1,463,927 | △ 3,006,073 | |
| 部会活動支出 | 3,570,000 | 1,163,927 | △ 2,406,073 | |
| 補助金支出 | 900,000 | 300,000 | △ 600,000 | |
| 7. 認定事業支出 | 6,535,000 | 4,952,103 | △ 1,582,897 | |
| 認定TOX資格支出 | 2,251,000 | 1,878,074 | △ 372,926 | |
| 認定TOX総会支出 | 0 | 0 | 0 | |
| 基礎教育講習会支出 | 3,297,000 | 2,580,704 | △ 716,296 | |
| 生涯教育講習会支出 | 381,000 | 386,523 | 5,523 | |
| リスクアセッサー講習会支出 | 606,000 | 106,802 | △ 499,198 | |
| 8. 各種委員会事業支出 | 1,900,365 | 281,259 | △ 1,619,106 | |
| 総務委員会 | 458,400 | 242,979 | △ 215,421 | |
| 財務委員会 | 37,565 | 38,280 | 715 | 会議費・旅費等 |
| 編集委員会 | 50,000 | 0 | △ 50,000 | 会議費・旅費等 |
| 教育委員会 | 902,000 | 0 | △ 902,000 | 会議費・旅費等 |
| 学術広報委員会 | 452,400 | 0 | △ 452,400 | 会議費・旅費等 |
| その他関連委員会 | 0 | 0 | 0 | |
| 9. 関連団体連携事業費 | 1,500,000 | 1,012,594 | △ 487,406 | |
| 負担金・年会費 | 1,200,000 | 804,128 | △ 395,872 | IUTOX2020分担金, 日本学術協力財団年会費 |
| シンポジウム拠出金 | 300,000 | 208,466 | △ 91,534 | 日本学術会議シンポジウム |
| 10. 管理費 | 16,940,740 | 14,807,203 | △ 2,133,537 | |
| 会議費 | 1,099,000 | 699,600 | △ 399,400 | WebEX アカウント利用料 |
| 旅費交通費 | 670,000 | 3,046 | △ 666,954 | 理事会等 |
| 通信費 | 350,000 | 261,836 | △ 88,164 | |
| 印刷費 | 320,000 | 7,623 | △ 312,377 | |
| 消耗品費 | 60,000 | 7,398 | △ 52,602 | |
| 選挙関係費 | 120,000 | 0 | △ 120,000 | |
| 事務委託費 | 9,801,000 | 10,067,148 | 266,148 | |
| HP更新・管理費 | 701,200 | 337,403 | △ 363,797 | |
| 支払手数料 | 630,380 | 938,854 | 308,474 | 決済手数料, 振込手数料等 |
| 支払報酬料 | 1,089,160 | 1,182,500 | 93,340 | 公認会計士他報酬料 |
| 雑費 | 600,000 | 331,495 | △ 268,505 | 保管料等 |
| 租税公課 | 1,500,000 | 970,300 | △ 529,700 | 法人税・消費税 |
| 11. 貸倒損失 | 0 | 272,160 | 272,160 | |
| 経常支出合計 | 70,590,290 | 63,134,570 | △ 7,455,720 | |
| 経常収支差額 | 2,372,979 | 13,494,150 | 11,121,171 | |
| 前期繰越収支差額 | 101,462,500 | 101,462,500 | 0 | |
| 次期繰越収支差額 | 103,835,479 | 114,956,650 | 11,121,171 | |

(資料3)

一般社団法人 日本毒性学会 2020年度正味財産増減計算書

(2020年5月1日～2021年4月30日)

| 一般会計 | 科 目 | 当年度 | 前年度 | 増 減 |
|------|-----------------|-------------|-------------|--------------|
| I | 一般正味財産増減の部 | | | |
| | 1. 経常増減の部 | | | |
| | (1) 経常収益 | | | |
| | 会費収入 | 23,120,000 | 22,232,000 | 888,000 |
| | 一般会員会費収入 | 13,995,000 | 13,925,000 | 70,000 |
| | 評議員会費収入 | 2,962,000 | 2,778,000 | 184,000 |
| | 学生会員収入 | 413,000 | 309,000 | 104,000 |
| | 賛助会員収入 | 5,750,000 | 5,220,000 | 530,000 |
| | 会誌発行事業収入 | 10,057,952 | 9,072,164 | 985,788 |
| | 広告料収入 | 574,400 | 1,023,100 | △ 448,700 |
| | 別刷料・掲載料収入 | 9,326,052 | 7,838,564 | 1,487,488 |
| | 定期購読料収入 | 140,000 | 200,000 | △ 60,000 |
| | B N販売収入 | 17,500 | 10,500 | 7,000 |
| | 英文誌発行事業収入 | 5,490,141 | 6,571,794 | △ 1,081,653 |
| | 科研費収入 | 3,900,000 | 3,900,000 | 0 |
| | FTS掲載料収入 | 1,590,141 | 2,671,794 | △ 1,081,653 |
| | 学術集会事業収入 | 24,387,116 | 59,538,795 | △ 35,151,679 |
| | 学術集会収入 | 24,387,116 | 57,276,644 | △ 32,889,528 |
| | 学術集会寄付金収入 | 0 | 2,262,151 | △ 2,262,151 |
| | 研究部会事業収入 | 1,836,610 | 4,519,005 | △ 2,682,395 |
| | 金属部会 | 807,003 | 2,899,002 | △ 2,091,999 |
| | 医薬品部会 | 1,029,607 | 1,620,003 | △ 590,396 |
| | 認定事業収入 | 9,483,000 | 11,436,000 | △ 1,953,000 |
| | 認定T O X資格収入 | 4,140,000 | 5,230,000 | △ 1,090,000 |
| | 認定T O X総会収入 | 0 | 99,000 | △ 99,000 |
| | 基礎教育講習会収入 | 3,415,000 | 5,646,000 | △ 2,231,000 |
| | 生涯教育講習会収入 | 538,000 | 461,000 | 77,000 |
| | 毒性評価値設定講習会 | 1,390,000 | 0 | 1,390,000 |
| | 補助金収入 | 500,000 | 500,000 | 0 |
| | ファイザー賞賞金収入 | 500,000 | 500,000 | 0 |
| | 受取利息 | 830 | 652 | 178 |
| | 雑収入 | 1,753,071 | 362,869 | 1,390,402 |
| | 経常収益計 | 76,628,720 | 114,233,079 | △ 37,604,359 |
| | (2) 経常費用 | | | |
| | 会誌発行事業費 | 9,126,811 | 11,351,036 | △ 2,224,225 |
| | 会誌発行費 | 9,002,606 | 11,143,171 | △ 2,140,565 |
| | 会誌発送費 | 124,205 | 207,865 | △ 83,660 |
| | 英文誌発行事業費 | 3,895,032 | 3,400,834 | 494,198 |
| | 会誌発行費 | 2,915,328 | 2,230,333 | 684,995 |
| | 科研費支出分 | 979,704 | 1,170,501 | △ 190,797 |
| | 表彰事業費 | 2,418,116 | 2,727,089 | △ 308,973 |
| | ファイザー賞 | 497,850 | 512,100 | △ 14,250 |
| | 田邊賞(振興) | 667,036 | 657,436 | 9,600 |
| | 学会賞・特別賞・奨励賞(振興) | 901,530 | 1,242,938 | △ 341,408 |
| | 技術賞(振興) | 326,400 | 226,163 | 100,237 |
| | 記念品費(振興) | 25,300 | 88,452 | △ 63,152 |
| | 学術集会事業費 | 24,905,365 | 57,276,644 | △ 32,371,279 |
| | 学術集会支出 | 24,387,116 | 57,276,644 | △ 32,889,528 |
| | 学術集会補助金 | 518,249 | 0 | 518,249 |
| | 部会事業支出 | 1,463,927 | 4,699,495 | △ 3,235,568 |
| | 金属部会 | 744,419 | 3,148,891 | △ 2,404,472 |
| | 医薬品部会 | 719,508 | 1,550,604 | △ 831,096 |
| | 認定事業費 | 4,952,103 | 7,780,105 | △ 2,828,002 |
| | 認定T O X資格支出 | 1,878,074 | 2,139,652 | △ 261,578 |
| | 認定T O X総会支出 | 0 | 250,378 | △ 250,378 |
| | 基礎教育講習会支出 | 2,580,704 | 4,471,993 | △ 1,891,289 |
| | 生涯教育講習会支出 | 386,523 | 918,082 | △ 531,559 |
| | 毒性評価講習会 | 106,802 | 0 | 106,802 |
| | 各種委員会事業費 | 281,259 | 794,241 | △ 512,982 |
| | 総務委員会 | 242,979 | 292,895 | △ 49,916 |
| | 財務委員会 | 38,280 | 184,127 | △ 145,847 |
| | 編集委員会 | 0 | 95,694 | △ 95,694 |
| | 教育委員会 | 0 | 136,130 | △ 136,130 |
| | 学術広報委員会 | 0 | 85,395 | △ 85,395 |
| | 関連団体連携事業費 | 1,012,594 | 2,916,275 | △ 1,903,681 |
| | 負担金・年会費 | 804,128 | 1,498,832 | △ 694,704 |
| | シンポジウム提出金 | 208,466 | 1,417,443 | △ 1,208,977 |
| | 管理費 | 14,807,203 | 15,630,909 | △ 823,706 |
| | 会議費 | 699,600 | 275,397 | 424,203 |
| | 旅費交通費 | 3,046 | 161,686 | △ 158,640 |
| | 印刷費 | 7,623 | 110,443 | △ 102,820 |
| | 通信運搬費 | 261,836 | 265,581 | △ 3,745 |
| | 消耗品費 | 7,388 | 9,197 | △ 1,799 |
| | 選挙関係費 | 0 | 154,616 | △ 154,616 |
| | 事務委託費 | 10,067,148 | 9,764,910 | 302,238 |
| | 支払報酬 | 1,182,500 | 1,121,000 | 61,500 |
| | H P更新・管理費 | 337,403 | 437,573 | △ 100,170 |
| | 租税公課 | 970,300 | 2,042,100 | △ 1,071,800 |
| | 支払手数料 | 938,854 | 1,063,578 | △ 124,724 |
| | 雑費 | 331,495 | 224,828 | 106,667 |
| | 貸倒損失 | 272,160 | 1,494,288 | △ 1,222,128 |
| | 経常費用計 | 63,134,570 | 108,070,916 | △ 44,936,346 |
| | 評価損益等調整前当期経常増減額 | 13,494,150 | 6,162,163 | 7,331,987 |
| | 評価損益等計 | 0 | 0 | 0 |
| | 当期経常増減額 | 13,494,150 | 6,162,163 | 7,331,987 |
| | 2. 経常外増減の部 | | | |
| | (1) 経常外収益 | | | |
| | 経常外収益計 | 0 | 0 | 0 |
| | (2) 経常外費用 | | | |
| | 経常外費用計 | 0 | 0 | 0 |
| | 当期経常外増減額 | 0 | 0 | 0 |
| | 当期一般正味財産増減額 | 13,494,150 | 6,162,163 | 7,331,987 |
| | 一般正味財産期首残高 | 101,462,500 | 95,300,337 | 6,162,163 |
| | 一般正味財産期末残高 | 114,956,650 | 101,462,500 | 13,494,150 |
| | II 指定正味財産増減の部 | | | |
| | 当期指定正味財産増減額 | 0 | 0 | 0 |
| | 指定正味財産期首残高 | 0 | 0 | 0 |
| | 指定正味財産期末残高 | 0 | 0 | 0 |
| | III 正味財産期末残高 | 114,956,650 | 101,462,500 | 13,494,150 |

(資料 4)

貸借対照表

(2021年4月30日現在)

(単位：円)

| 借 方 | | 貸 方 | |
|-------|-------------|-------------|-------------|
| 勘定科目 | 金額 | 勘定科目 | 金額 |
| 流動資産 | 129,237,956 | 流動負債 | 14,281,306 |
| 現 金 | 0 | 未 払 金 | 5,442,373 |
| 預 金 | 123,662,652 | 前 受 金 | 1,105,832 |
| 未 収 金 | 779,839 | 前 受 会 費 | 7,128,000 |
| 前 払 金 | 2,618,125 | 預 り 金 | 5,101 |
| 立 替 金 | 2,177,340 | 未 払 法 人 税 等 | 200,000 |
| | | 未 払 消 費 税 等 | 400,000 |
| | | 正味財産 | 114,956,650 |
| | | 次年度繰越金 | 114,956,650 |
| | | 前期繰越金 | 101,462,500 |
| | | 当期収支差額 | 13,494,150 |
| 資産合計 | 129,237,956 | 負債・正味財産合計 | 129,237,956 |

(資料 5)

財産目録

(2021年4月30日現在)

(単位：円)

| 勘定科目 | 摘 要 | 金額 |
|-------|--|-------------|
| 流動資産 | | |
| 現 金 | 小口現金 | 0 |
| 預 金 | 郵便振替預金 | 18,842,622 |
| | みずほ銀行麹町支店 | 49,021,748 |
| | みずほ銀行麹町支店 | 24,340,505 |
| | 三井住友銀行つくば支店 | 0 |
| | 三井住友銀行神田支店 | 0 |
| | みずほ銀行麹町支店 | 29,690,644 |
| | ゆうちょ銀行 | 389,675 |
| | 三菱 UFJ 銀行 | 1,377,458 |
| 合計 | | 123,662,652 |
| 未 収 金 | 2018年度別刷・掲載料 VOL.43-5・6・10・11 5件 VOL.44-1 1件 | 691,200 |
| | 2020年度JTS別刷・掲載料 ペリトランス(株)4月扱い分 | 88,639 |
| 合計 | | 779,839 |
| 前 払 金 | SOT2021 出展ブース代 | 65,606 |
| | 第 48 回学術年会補助金 | 1,200,000 |
| | 第 48 回学術年会時市民公開セミナー補助金 | 1,000,000 |
| | 2021 年度メタルバイオサイエンス研究会補助金 | 300,000 |
| | (株)毎日学術フォーラム 3 月コピー代過払い分 | 2,519 |
| | 2021 年度日本学術協力財団年会費 | 50,000 |
| 合計 | | 2,618,125 |
| 立 替 金 | 2022 年度開催第 49 回学術年会 会場予約金 | 538,560 |
| | 2023 年度開催第 50 回学術年会 会場予約金 | 1,638,780 |
| 合計 | | 2,177,340 |
| 資産合計 | | 129,237,956 |

流動負債 (単位：円)

| | | |
|--------|---|---|
| 未払金 | JTS VOL.45-1・2・3合併号 発行費他 (株)仙台共同印刷 業務委託費他 (株)毎日学術フォーラム 第24回基礎教育講習会撮影料 (株)チーム・エムツー 総務委員会交通費 1名 2回 総務委員会会場費 2月分 2020年度会計報酬料等 馬目事務所 | 2,681,825 1,027,028 1,045,000 5,520 45,000 638,000 |
| 合計 | | 5,442,373 |
| 前受金 | 第22回生涯教育講習会参加費 認定 TOX 事前 24名 第22回生涯教育講習会参加費 事前 会員 12件 第22回生涯教育講習会参加費 事前 非会員 5件 ペリトランス扱いJTS掲載料 VOL.46-4・5・6 8件 2021年度購読料 7件 | 72,000 60,000 35,000 868,832 70,000 |
| 合計 | | 1,105,832 |
| 前受会費 | 次年度以降年会費 | 7,128,000 |
| 合計 | | 7,128,000 |
| 預り金 | 預り源泉税 | 5,101 |
| 合計 | | 5,101 |
| 未払法人税等 | 2020年度未払法人税等 概算 | 200,000 |
| 未払消費税等 | 2020年度未払消費税等 概算 | 400,000 |
| 流動負債合計 | | 14,281,306 |

(資料6)

収支計算書に対する注記

1. 資金の範囲

資金の範囲には、現金預金、未収金、前払金、立替金、未払金、前受金、前受会費、仮受金、預り金、未払法人税等及び未払消費税等を含めている。

なお、前期末及び当期末残高は、下記2に記載するとおりである。

2. 次期繰越収支差額に含まれる資産及び負債の内訳

| 科目 | | 前期末残高 | 当期末残高 |
|----------|------|-------------|-------------|
| 現金預金 | | 113,811,565 | 123,662,652 |
| 未収金 | | 1,454,560 | 779,839 |
| 前払金 | | 2,200,000 | 2,618,125 |
| 立替金 | | | 2,177,340 |
| | 資産合計 | 117,466,125 | 129,237,956 |
| 未払金 | | 6,864,133 | 5,442,373 |
| 前受金 | | 1,705,492 | 1,105,832 |
| 前受会費 | | 6,604,000 | 7,128,000 |
| 仮受金 | | 30,000 | 0 |
| 預り金 | | | 5,101 |
| 未払法人税等 | | 300,000 | 200,000 |
| 未払消費税等 | | 500,000 | 400,000 |
| | 負債合計 | 16,003,625 | 14,281,306 |
| 次期繰越収支差額 | | 101,462,500 | 114,956,650 |

(資料7)

財務諸表に対する注記

1. 重要な会計方針

(1) 消費税等の会計処理

消費税の会計処理は、税込み方式によっている。

2. 補助金等の内訳並びに交付金、当期の増減額及び残高

| 補助金等の名称 | 交付者 | 前期末残高 | 当期増加額 | 当期減少額 | 当期末残高 | 備考 |
|-------------------------|---------|-------|-----------|-----------|-------|----|
| 科学研究費補助金 (研究成果公開促進費) | 日本学術振興会 | 0 | 3,900,000 | 3,900,000 | 0 | |

附属明細書

1. 基本財産および特定資産の明細

「公益法人会計基準」(平成20年4月11日平成21年10月16日改正内閣府公益認定等委員会)に定める附属明細書の記載上の留意点に従い、財務諸表の注記2および3に記載しているので、内容の記載を省略している。

以上

(資料8)

一般社団法人日本毒性学会 2021年度事業計画書

1. 学術集会・講習会の開催

- (1) 第48回日本毒性学会学術年会
2021年7月7日～7月9日
神戸国際会議場およびWeb会議システム等を利用したハイブリッド開催
年会長：福井 英夫 (Axceed Drug Discovery Partners 株式会社)
- (2) 第22回生涯教育講習会
2021年7月7日～7月16日 Web開催
- (3) 第18回市民公開セミナー
テーマ「高齢者の目の病気」「最近増えてきた、胃腸のアレルギー病」
2021年7月10日 神戸芸術センター
- (4) 第25回基礎教育講習会(2022年度事業分)
2022年4月予定 Webinar + 講習会(予定)による開催
※第24回基礎教育講習会(2021年度事業分)は、2020年4月～実施
- (5) リスクアセッサー講習会
開催日未定

2. 認定試験の実施

- (1) 第24回日本毒性学会認定トキシコロジスト認定試験
2021年9月26日
昭和大学 旗の台キャンパス
※予備日：10月3日

3. 学会誌・その他の刊行物の刊行

- (1) The Journal of Toxicological Sciences
46巻5号～47巻4号, Supplement
- (2) Fundamental Toxicological Sciences
8巻2号～9巻2号
- (3) 毒性学ニュース
46巻3号～47巻2号

4. 賞の授与

- | | |
|------------------------|------|
| (1) 2021年度学会賞 | 1名以内 |
| (2) 2021年度特別賞 | 1名以内 |
| (3) 2021年度佐藤哲男賞(国際貢献賞) | 1名以内 |
| (4) 2021年度学会貢献賞 | 1名以内 |
| (5) 2021年度奨励賞 | 3名以内 |
| (6) 2021年度田邊賞 | 4題以内 |
| (7) 2021年度ファイザー賞 | 3編程度 |
| (8) 2021年度技術賞 | 3名以内 |

5. 賞の選考

- | | |
|-------------------|------|
| (1) 2021年度日化協LRI賞 | 1名以内 |
|-------------------|------|

6. 国際活動

- (1) IUTOXへの活動協力
- (2) ASIATOXへの活動協力
- (3) 第61回 Society of Toxicology (SOT) 年会(2022年3月27日～31日, San Diego, CA)への参加
- (4) SOTとの連携強化
第61回SOTへ学会員を派遣
第48回学術年会でのSOTとの合同企画

7. 2021年度推進事業

- (1) 学会主催・共催等シンポジウムの開催
- (2) 専門部会活動
- (3) 学会協賛シンポジウムの開催

8. その他目的を達成するために必要な事業として、下記の委員会活動を行う。

常置委員会：総務委員会, 財務委員会, 編集委員会, 教育委員会, 学術広報委員会

(資料 9)

一般社団法人 日本毒性学会 2021 年度予算書

(2021 年 5 月 1 日～ 2022 年 4 月 30 日)

(単位：円)

| | 2020 年度予算① | 2020 年度決算 | 2021 年度予算② | 差異 (②-①) |
|----------------------|-------------------|-------------------|-------------------|--------------------|
| 〔経常収入の部〕 | | | | |
| 1. 会費収入 | 23,168,700 | 23,120,000 | 26,365,200 | 3,196,500 |
| 一般会員会費収入 | 13,657,500 | 13,995,000 | 16,743,600 | 3,086,100 |
| 評議員会費収入 | 2,912,000 | 2,962,000 | 3,520,000 | 608,000 |
| 学生会員収入 | 349,200 | 413,000 | 351,600 | 2,400 |
| 賛助会員会費収入 | 6,250,000 | 5,750,000 | 5,750,000 | △ 500,000 |
| 2. JTS 発行事業収入 | 9,072,064 | 10,057,952 | 11,003,500 | 1,931,436 |
| 広告料収入 | 1,023,000 | 574,400 | 1,000,000 | △ 23,000 |
| 別刷料・掲載料収入 | 7,838,564 | 9,326,052 | 9,800,000 | 1,961,436 |
| 定期購読料収入 | 200,000 | 140,000 | 200,000 | 0 |
| BN 販売収入 | 10,500 | 17,500 | 3,500 | △ 7,000 |
| 3. FTS 発行事業収入 | 6,600,000 | 5,490,141 | 5,700,000 | △ 900,000 |
| 科研費収入 | 3,900,000 | 3,900,000 | 3,900,000 | 0 |
| FTS 掲載料収入 | 2,700,000 | 1,590,141 | 1,800,000 | △ 900,000 |
| 4. 学術年会事業収入 | 20,263,000 | 24,387,116 | 48,490,000 | 28,227,000 |
| 学術年会収入 | 20,263,000 | 24,387,116 | 48,490,000 | 28,227,000 |
| 学術年会寄付収入 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 5. 部会事業収入 | 4,519,005 | 1,836,610 | 4,100,000 | △ 419,005 |
| 部会活動収入 | 4,519,005 | 1,836,610 | 4,100,000 | △ 419,005 |
| 6. 認定事業収入 | 8,440,000 | 9,483,000 | 9,710,000 | 1,270,000 |
| 認定 TOX 資格収入 | 5,250,000 | 4,140,000 | 5,320,000 | 70,000 |
| 認定 TOX 総会収入 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 基礎教育講習会収入 | 2,274,000 | 3,415,000 | 3,440,000 | 1,166,000 |
| 生涯教育講習会収入 | 366,000 | 538,000 | 450,000 | 84,000 |
| リスクアセッサー講習会収入 | 550,000 | 1,390,000 | 500,000 | △ 50,000 |
| 7. 補助金収入 | 500,000 | 500,000 | 500,000 | 0 |
| ファイザー賞賞金収入 | 500,000 | 500,000 | 500,000 | 0 |
| 8. 受取利息 | 500 | 830 | 500 | 0 |
| 9. 雑収入 | 400,000 | 1,753,071 | 400,000 | 0 |
| 経常収入合計 | 72,963,269 | 76,628,720 | 106,269,200 | 33,305,931 |
| 〔経常支出の部〕 | | | | |
| 1. JTS 発行事業支出 | 10,150,000 | 9,126,811 | 10,150,000 | 0 |
| 会誌発行費 | 9,800,000 | 9,002,606 | 9,800,000 | 0 |
| 会誌発送費 | 350,000 | 124,205 | 350,000 | 0 |
| 2. FTS 発行事業支出 | 3,400,834 | 3,895,032 | 3,400,000 | △ 834 |
| 編集費 | 2,230,333 | 2,915,328 | 1,200,000 | △ 1,030,333 |
| 関連諸経費 | 1,170,501 | 979,704 | 2,200,000 | 1,029,499 |
| 3. 表彰事業支出 | 2,985,000 | 2,418,116 | 2,606,000 | △ 379,000 |
| ファイザー賞支出 | 500,000 | 497,850 | 500,000 | 0 |
| 田邊賞支出 | 750,000 | 667,036 | 750,000 | 0 |
| 学会賞・特別賞・奨励賞・佐藤哲男賞支出 | 1,265,000 | 901,530 | 986,000 | △ 279,000 |
| 技術賞支出 | 350,000 | 326,400 | 250,000 | △ 100,000 |
| 記念品費 | 120,000 | 25,300 | 120,000 | 0 |
| 4. 学術年会事業支出 | 22,708,351 | 24,905,365 | 56,690,000 | 33,981,649 |
| 学術年会支出 | 20,508,351 | 24,387,116 | 54,490,000 | 33,981,649 |
| 学術年会補助金 | 2,200,000 | 518,249 | 2,200,000 | 0 |
| 5. セミナー事業支出 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 市民公開セミナー補助金 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 6. 部会事業支出 | 4,470,000 | 1,463,927 | 5,167,000 | 697,000 |
| 部会活動支出 | 3,570,000 | 1,163,927 | 4,267,000 | 697,000 |
| 部会補助金 | 900,000 | 300,000 | 900,000 | 0 |
| 7. 認定事業支出 | 6,535,000 | 4,952,103 | 4,878,000 | △ 1,657,000 |
| 認定 TOX 資格支出 | 2,251,000 | 1,878,074 | 2,330,000 | 79,000 |
| 認定 TOX 総会支出 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 基礎教育講習会支出 | 3,297,000 | 2,580,704 | 1,600,000 | △ 1,697,000 |
| 生涯教育講習会支出 | 381,000 | 386,523 | 748,000 | 367,000 |
| リスクアセッサー講習会支出 | 606,000 | 106,802 | 200,000 | △ 406,000 |
| 8. 各種委員会事業支出 | 1,900,365 | 281,259 | 2,388,400 | 488,035 |
| 総務委員会 | 458,400 | 242,979 | 858,400 | 400,000 |
| 財務委員会 | 37,565 | 38,280 | 230,000 | 192,435 |
| 編集委員会 | 50,000 | 0 | 50,000 | 0 |
| 教育委員会 | 902,000 | 0 | 900,000 | △ 2,000 |
| 学術広報委員会 | 452,400 | 0 | 350,000 | △ 102,400 |
| その他関連委員会 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 8. 関連団体連携事業費 | 1,500,000 | 1,012,594 | 2,821,600 | 1,321,600 |
| 負担金・年会費 | 1,200,000 | 804,128 | 1,920,000 | 720,000 |
| シンポジウム提出金 | 300,000 | 208,466 | 901,600 | 601,600 |
| 9. 管理費 | 16,940,740 | 14,807,203 | 17,217,000 | 276,260 |
| 会議費 | 1,099,000 | 699,600 | 796,200 | △ 302,800 |
| 旅費交通費 | 670,000 | 3,046 | 200,000 | △ 470,000 |
| 通信費 | 350,000 | 261,836 | 350,000 | 0 |
| 印刷費 | 320,000 | 7,623 | 320,000 | 0 |
| 消耗品費 | 60,000 | 7,398 | 60,000 | 0 |
| 選挙関係費 | 120,000 | 0 | 750,000 | 630,000 |
| 事務委託費 | 9,801,000 | 10,067,148 | 9,801,000 | 0 |
| HP 更新・管理費 | 701,200 | 337,403 | 718,800 | 17,600 |
| 支払手数料 | 630,380 | 938,854 | 1,000,000 | 369,620 |
| 支払報酬料 | 1,089,160 | 1,182,500 | 1,121,000 | 31,840 |
| 雑費 | 600,000 | 331,495 | 600,000 | 0 |
| 租税公課 | 1,500,000 | 970,300 | 1,500,000 | 0 |
| 10. 貸倒損失 | 0 | 272,160 | 0 | 0 |
| 経常支出合計 | 70,590,290 | 63,134,570 | 105,318,000 | 34,727,710 |
| 当期収支差額 | 2,372,979 | 13,494,150 | 951,200 | △ 1,421,779 |
| 前期繰越収支差額 | 101,462,500 | 101,462,500 | 101,462,500 | 0 |
| 次期繰越収支差額 | 103,835,479 | 114,956,650 | 102,413,700 | △ 1,421,779 |

(資料 10)

2021 年度日本毒性学会 新功労会員一覧

(敬称略)

| 氏 名 | 所 属 |
|-------|------------------------|
| 安仁屋洋子 | 琉球大学医学部 名誉教授 |
| 横井 毅 | 金沢大学大学院 医学系研究科 統合医薬学領域 |

(資料 11)

2021 年度日本毒性学会 名誉トキシコロジスト一覧

(敬称略)

| 氏 名 | 所 属 |
|-------|-----------------|
| 川本 俊弘 | 中央労働災害防止協会 |
| 久田 茂 | あすか製薬株式会社創薬研究本部 |

(資料 12)

2021 年度日本毒性学会 新評議員一覧

(五十音順敬称略)

| 氏 名 | 現 職 |
|-------|------------------|
| 安部賀央里 | 名古屋市立大学 |
| 石井 雄二 | 国立医薬品食品衛生研究所 |
| 井上 薫 | 国立医薬品食品衛生研究所 |
| 臼井 亨 | 大日本住友製薬 (株) |
| 内田 秀臣 | (株) LSIM 安全科学研究所 |
| 木村 栄輝 | シンシナティ大学 |
| 栗田 尚佳 | 岐阜薬科大学 |
| 合田 圭佑 | アステラス製薬 (株) |
| 齊藤 公亮 | 国立医薬品食品衛生研究所 |
| 斎藤 芳郎 | 東北大学 |
| 篠田 陽 | 東京薬科大学 |
| 立花 研 | 山口東京理科大学 |
| 種村健太郎 | 東北大学 |
| 田原 春菜 | 千寿製薬 (株) |
| 千原 和弘 | 大日本住友製薬 (株) |
| 長谷川 潤 | 神戸薬科大学 |
| 原 崇人 | 東邦大学 |
| 坂 芳樹 | 千葉科学大学 |
| 檜杖 昌則 | ファイザー R&D (同) |
| 廣森 洋平 | 鈴鹿医療科学大学 |
| 孫谷 弘明 | (株) 新日本科学 |
| 宮本 実 | 武田薬品工業 (株) |
| 武藤 朋子 | クミアイ化学工業 (株) |
| 森山 智之 | エーザイ (株) |
| 山本 大 | (株) LSIM 安全科学研究所 |
| 横田 理 | 国立医薬品食品衛生研究所 |
| 米澤 豊 | 科研製薬 (株) |

(資料13)

2021年度日本毒性学会 田邊賞受賞論文一覧

論文: Adjustment of a no expected sensitization induction level derived from Bayesian network integrated testing strategy for skin sensitization risk assessment

著者: Yuki Otsubo, Taku Nishijo, Hideyuki Mizumachi, Kazutoshi Saito, Masaaki Miyazawa, Hitoshi Sakaguchi

J. Toxicol. Sci. Vol.45, No.1, 57-67, 2020

受賞者: 大坪 裕紀 (花王株式会社 安全性科学研究所)

西條 拓 (花王株式会社 安全性科学研究所)

水町 秀之 (花王株式会社 安全性科学研究所)

齋藤 和智 (花王株式会社 安全性科学研究所)

坂口 斉 (花王株式会社 安全性科学研究所)

宮澤 正明 (花王株式会社 安全性科学研究所)

論文: Integration of read-across and artificial neural network-based QSAR models for predicting systemic toxicity: A case study for valproic acid

著者: Tomoka Hisaki, Maki Aiba née Kaneko, Morihiko Hirota, Masato Matsuoka, Hirokazu Kouzuki

J. Toxicol. Sci. Vol.45, No.2, 95-108, 2020

受賞者: 久木 友花 (資生堂グローバルイノベーションセンター)

相葉 摩紀 (資生堂グローバルイノベーションセンター)

廣田 衛彦 (資生堂グローバルイノベーションセンター)

上月 裕一 (資生堂グローバルイノベーションセンター)

論文: *In silico* systems for predicting chemical-induced side effects using known and potential chemical protein interactions, enabling mechanism estimation

著者: Yuto Amano, Hiroshi Honda, Ryusuke Sawada, Yuko Nukada, Masayuki Yamane, Naohiro Ikeda, Osamu Morita, Yoshihiro Yamanishi

J. Toxicol. Sci. Vol.45, No.3, 137-149, 2020

受賞者: 天野 雄斗 (花王株式会社 安全性科学研究所)

本田 大士 (花王株式会社 安全性科学研究所)

澤田 隆介 (九州工業大学 大学院情報工学研究院 生命化学情報工学研究系)

額田 祐子 (花王株式会社 安全性科学研究所)

山根 雅之 (花王株式会社 安全性科学研究所)

池田 直弘 (花王株式会社 安全性科学研究所)

森田 修 (花王株式会社 安全性科学研究所)

山西 芳裕 (九州工業大学 大学院情報工学研究院 生命化学情報工学研究系)

(資料 14)

2021 年度日本毒性学会 ファイザー賞受賞論文一覧

論文：A long-term culture system based on a collagen vitrigel membrane chamber that supports liver-specific functions of hepatocytes isolated from mice with humanized livers

著者：Ryuji Watari, Motoharu Kakiki, Ayumi Oshikata, Toshiaki Takezawa, Chihiro Yamasaki, Yuji Ishida, Chise Tateno, Yukie Kuroda, Seiichi Ishida, Kazutomi Kusano
J. Toxicol. Sci. Vol.43, No.8, 521-529, 2018

受賞者：渡 隆爾 (エーザイ株式会社)
押方 歩 (国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構)
竹澤 俊明 (国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構)
立野 知世 (株式会社フェニックスバイオ)
黒田 幸恵 (国立医薬品食品衛生研究所)
石田 誠一 (国立医薬品食品衛生研究所)
山崎ちひろ (株式会社フェニックスバイオ)
石田 雄二 (株式会社フェニックスバイオ)

論文：Comparative study for carcinogenicity of 7 different multi-wall carbon nanotubes with different physicochemical characteristics by a single intraperitoneal injection in male Fischer 344 rats

著者：Yoshimitsu Sakamoto, Motoki Hojo, Yuki Kosugi, Kimiyo Watanabe, Akihiko Hirose, Akiko Inomata, Toshinari Suzuki, Dai Nakae
J. Toxicol. Sci. Vol.43, No.10, 587-600, 2018

受賞者：坂本 義光 (東京都健康安全研究センター 薬事環境科学部 生体影響研究科)
北條 幹 (東京都健康安全研究センター 薬事環境科学部 生体影響研究科)
広瀬 明彦 (国立医薬品食品衛生研究所 安全性生物試験研究センター 安全性予測評価部)
猪又 明子 (東京都健康安全研究センター 薬事環境科学部)
中江 大 (東京農業大学 応用生物科学部 食品安全健康学科)

論文：Bisphenol AF as an activator of human estrogen receptor β 1 (ER β 1) in breast cancer cell lines

著者：Hiroyuki Okazaki, Masayo Hirao-Suzuki, Shuso Takeda, Yukimi Takemoto, Ramu Mizunoe, Koichi Haraguchi, Kazuhito Watanabe, Masufumi Takiguchi, Hironori Aramaki
J. Toxicol. Sci. Vol.43, No.5, 321-327, 2018

受賞者：竹田 修三 (福山大学 薬学部 衛生薬学研究室)
岡崎 裕之 (第一薬科大学 薬学部 分子生物学研究室)
瀧口 益史 (広島国際大学 薬学部 環境毒物代謝学研究室)
平尾 雅代 (広島国際大学 薬学部 環境毒物代謝学研究室)
荒牧 弘範 (株式会社サンキュードラッグ)

論文：Increased susceptibility to troglitazone-induced mitochondrial permeability transition in type 2 diabetes mellitus model rat

著者：Masahiro Segawa, Shuichi Sekine, Tomoyuki Sato, Kousei Ito
J. Toxicol. Sci. Vol.43, No.5, 339-351, 2018

受賞者：瀬川 雅博 (大塚製薬株式会社)
関根 秀一 (株式会社 資生堂)
佐藤 智之 (国立研究開発法人 産業技術総合研究所)
伊藤 晃成 (千葉大学大学院薬学研究院)

論文：Photodynamic therapy using talaporfin sodium induces heme oxygenase-1 expression in rat malignant meningioma KMY-J cells

著者：Tsutomu Takahashi, Saki Suzuki, Suzuka Misawa, Jiro Akimoto, Yo Shinoda, Yasuyuki Fujiwara
J. Toxicol. Sci. Vol.43, No.5, 353-358, 2018

受賞者：高橋 勉 (東京薬科大学薬学部公衆衛生学教室)
鈴木 早紀 (東京薬科大学薬学部公衆衛生学教室)
三澤 鈴香 (東京薬科大学薬学部公衆衛生学教室)
秋元 治朗 (東京薬科大学薬学部公衆衛生学教室)
篠田 陽 (東京薬科大学薬学部公衆衛生学教室)
藤原 泰之 (東京薬科大学薬学部公衆衛生学教室)

論文：Social behavior, neuroimmune markers and glutamic acid decarboxylase levels in a rat model of valproic acid-induced autism

著者：Tin-Tin Win-Shwe, Nay Chi Nway, Motoki Imai, Thet-Thet Lwin, Ohn Mar, Hidehiro Watanabe
J. Toxicol. Sci. Vol.43, No.11, 631-643, 2018

受賞者：Win-Shwe Tin-Tin (国立環境研究所)
Nay Chi Nway (ヤンゴン第一医科大学)
今井 基貴 (北里大学)
ティ ティ ルイン (北里大学 医療衛生学部 医療工学)

(資料 15)

2021 年度日本毒性学会 学会賞・佐藤哲男賞（国際貢献賞）・ 学会貢献賞・奨励賞および技術賞受賞者一覧

(敬称略)

学会賞

受賞者名：広瀬 明彦（国立医薬品食品衛生研究所）
研究課題：行政利用を目的とした定量的有害性評価手法の開発

佐藤哲男賞（国際貢献賞）

受賞者名：黒川 雄二（元国立医薬品食品衛生研究所・公益財団法人佐々木研究所）
研究課題：日本毒性学会における国際水準による学術振興，及び，トキシコロジスト認定制定の推進

学会貢献賞

受賞者名：久田 茂（あすか製薬株式会社創薬研究本部）
研究課題：長期広報活動による学会ホームページの刷新と組織体制の確立および後進の育成

奨励賞

受賞者名：織田 進吾（小野薬品工業株式会社 安全性研究部）
研究課題：薬剤性肝障害のメカニズム解析，バイオマーカー探索及び in vitro 予測系の開発

技術賞

受賞者名：西條 拓（花王株式会社 安全性科学研究所）
研究課題：感作閾値を応用した新規皮膚感作性リスク評価手法の確立

受賞者名：青木 重樹（千葉大学大学院薬学研究院生物薬剤学研究室）
研究課題：ヒト HLA トランスジェニックマウスを用いた特異体質薬物毒性理解への取り組み

学会賞を受賞して

国立医薬品食品衛生研究所 広瀬 明彦

この度、2020年度日本毒性学会学会賞を賜り、大変光栄に存じます。ご推薦いただきました務台衛先生（株式会社LSIM安全科学研究所）、並びに菅野純理事長をはじめ本賞選考委員会委員に深く御礼申し上げます。この度の受賞対象研究である「行政利用を目的とした定量的有害性評価手法の開発」に関する研究に直接従事することになったのは、私が国立衛生試験所（現国立医薬品食品衛生研究所）の毒性部から総合評価研究室（安全性予測評価部の前身）に移動したのが始まりです。移動した当初は、総合評価研究室の行政支援の中心的な業務としての化審法の審査で、毎月数十物質の毒性試験報告書に対して毒性所見やNOELの根拠を記した評価資料を作成するという業務に携わっており、振り返ってみればこの頃に毒性評価の基礎を習得できたのではないかと思います。当時の化審法の評価は、NOELの判定が直接審査の結果に反映されるという仕組みであったので、NOELを判定することだけで行政利用のための評価の目的が達するという状況でした。一方、農薬や食品添加物を評価対象とする行政的な枠組みでは、基準値等を策定するために必要な一日許容摂取量（ADI）の設定が必要であり、NOELから更に安全係数（SF）又は不確実係数（UF）を設定することが求められます。それでも、多くのケースでは慢性試験のNOELにSFとして100を適用するだけでADIが見積もられることもあり、やはりNOELの判定が定量的なリスク評価の主要な評価項目になっていました。しかし、1998年にWHOがダイオキシンの評価でげっ歯類とヒトとの体内動態の違いを加味した耐容一日摂取量（TDI）の設定を行うようになったところからは、化学物質の評価において100という係数以外に様々な因子にもとづく係数を加味してTDI等を設定するということが一般的な評価手法となってきました。特に、慢性試験のデータが利用できない工業化学物質や環境汚染物質の評価においてSFやUFの設定は重要な評価項目となってきました。個人的には、この頃に国内におけるダイオキシンのTDI設定会議等において行政支援を行う機会があったほか、2003年の水道水質基準の改正時にも数多くの水質汚染物質のTDIの設定業務支援にも関わるといった機会に恵まれました。これらの経験を通して、単に海外の評価手法を真似るだけでなく、我が国において独自の評価手法を確立しなければ、我が国の行政のニーズに合った評価ができないと言う状況にも直面することになり、この頃から本格的に行政利用のための定量評価手法の取得とその改良に関する研究に取り組むようになった次第です。定量的なリスク評価手法

の中でも、ベンチマークドース手法はNOELが求められない場合にその代替値を設定できる客観的な手法として1980年代から開発され、当初は有償のソフトウェアを必要としていましたが、2000年に米国EPAがBMDSという無償のソフトウェアを開発、公開するようになってからは、通常のPC環境で手軽に利用できる



広瀬 明彦

ようになりました。さらに、2005年にアップデートされたEPAの発がん性ガイドラインにおいて、用量評価のデフォルトの計算手法としてベンチマークドース法が使われるようになってからは、広く一般的に使われるようになってきました。しかし、ベンチマークドースの計算そのものは、高度な統計学的知識が無くとも簡便に計算できるようになったものの、実際はパラメータや数理モデルの選択法の違いで複数のBMDLが算出される状況で、国際的に標準化された適切なBMDLの選定方法がないことから、必ずしも行政的な利用に適しているとは言えない手法でもありました。そこで、我々は様々な毒性試験データを用いてベンチマークドース法の適用条件の解析を行い、独自のベンチマークドース手法の最適化を試みる研究を行いました。さらにベンチマークドース法以外の定量的リスク評価法の開発として、確率論的手法を用いた新たな不確実係数、食品の器具・容器包装からの非遺伝毒性物質の溶出管理の基準として毒性学的懸念の閾値の概念をして適用する手法の開発、短期的な水質事故時の管理基準として短期曝露を想定した亜急性参照用量の提案等も手がけてきました。このように単なる基準値の基本となるADI設定のためだけを目的するだけでなく様々な行政的なニーズに適用できる評価基準の確立に関する研究を行ってきたことが、今回受賞の理由となったのではないかと考えているところです。最後に、これまでの研究に対し多大なご指導およびご助言を頂いた元総合評価室長の長谷川隆一先生および江馬眞先生に厚く御礼を申し上げますと共に、総合評価研究室時代から安全性予測評価部の期間にわたってデータ解析や議論を共に行うことをとおして、これまでの研究にご協力頂いた評価部の元職員及び現職員の皆様に感謝致します。

佐藤哲男賞（国際貢献賞）を受賞して

元国立医薬品食品衛生研究所安全性生物試験研究センター長 黒川 雄二

この度、2019年に開始された佐藤哲男賞（国際貢献賞）を、堀井郁夫先生、野村護先生に次いで受賞させて頂くことになりましたこと、誠に光栄に存じますとともに心から有り難く思っております。

国立衛研安全センター長を2001年に退職し、その後公益財団法人佐々木研究所に務め、そこも辞めてからすでに6年近く経っておりますので、日本毒性学会に関する事柄は殆どが記憶の彼方にあると申してもよいかと思えます。

そこへ、この度の受賞に際し菅野理事長から挨拶文を書くようにとのお話がありましたので、何とか思い出しながら書かせて頂く次第です。

本学会とのご縁は1987年に当時の毒科学会に入会した時に始まり、その後1992年理事に、その後理事長として1996年から99年まで務めさせて頂きました。

センター長を退職後、佐藤哲男先生の後任として国際トキシコロジー学連盟（IUTOX）副会長を2001年から務めさせて頂きましたが、佐々木研究所の業務との兼ね合いが難しくなり、ご無理を申し上げて2年後には故井上達元国立衛試安全センター長に引き継いで頂いた次第です。従って副会長としては、米国テネシー州ナッシュビルと豪州ブリスベンで開催されたIUTOX会議に出席しただけでありました。

このようにIUTOX副会長としての国際貢献度は微々たるものでありましたが、国立衛研時代には数多くの毒性関連国際会議に出席致しました。最も深く関わったのは医薬品規制ハーモナイゼーション国際共同研究（ICH）の安全性分野で、日米欧の専門家と各種毒性試験ガイドライン作成に携わりました。その他印象に残っているのはダイオキシンの一日耐用量（TDI）に関するWHO会議や米国環境衛生研究所（NIEHS）との毒性情報交換会合などです。

手帳を調べたところ国立衛研在職中に50回ほど国際会議、学会等に出かけていたことがわかりました。当時本学会会員でもありましたので、これらも加えて頂ければ何とか今回の国際貢献賞受賞の理由にはなるのではないかとも思っております。

本賞とは関係のないこととは思いますが、一つ加えさせて頂きたいことがあります。1996年、理事長に就任致しました時、学会の歴史を調べて気づいたことの一つは、最も会員数の多い製薬企業からまだ一度も理事長や年会長が選ばれていないことでした。早速、製薬企業所属の理事数名に提案、ご賛同を得たのち理事会の承認を頂き、1998年初めて製薬企業所属理事の主催による年会を名古屋で開催することができました。その後、年会長のみならず理事長も製薬企業所属の理事の方々から選ばれることになったことは、本学会が「産官学」一体となって運営されていることを如実に示している事実であると思っております。

末筆ながら、今回このような老生に名誉ある佐藤哲男賞受賞の機会をお与え下さるためにご尽力頂いた菅野理事長を始めとする関連各位に深謝致しますとともに、日本毒性学会の今後益々のご発展を心から祈念致し、今回の受賞ご挨拶とさせて頂きます。



黒川 雄二

（2021年8月記）

奨励賞を受賞して

小野薬品工業株式会社 研究本部 安全性研究部 織田 進吾

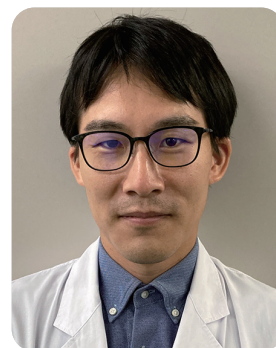
この度、私の研究課題である「薬剤性肝障害のメカニズム解析、バイオマーカー探索及び in vitro 予測系の開発」に対し、2021年度日本毒性学会奨励賞という名誉ある賞を賜り大変光栄に存じます。ご推薦して頂きました横井毅先生及び奨励賞選考委員長の堀井郁夫先生をはじめとする諸先生に厚く御礼申し上げます。

薬剤性肝障害は医薬品の市場撤退の要因となり得ますが、そのメカニズムは多くの薬剤で詳細な解析がなされておられません。私は名古屋大学にてこれまで一貫して薬剤性肝障害に焦点を当て研究を実施してきました。臨床で肝障害の報告がある薬剤であっても齧歯類においては肝障害を発症しない事例が多くあります。その一因として胆汁酸組成のヒトと齧歯類の種差に着目しました。ラットにケノデオキシコール酸と評価薬剤を併用投与したところ、ケトコナゾール単独投与では肝障害を惹起しませんでした。ケノデオキシコール酸との併用投与は肝障害を発症させました。胆汁酸組成の種差が肝障害感受性の種差

に反映されることを示すことができ、種差の奥深さを身を持って経験いたしました。

私は2020年より小野薬品工業株式会社にて非臨床安全性研究に関する業務に従事しておりますが、常に種差の存在に留意し考察する必要があると考えます。今後も安全性研究の観点から患者さんにとってリスクの低い医薬品の開発に貢献していく所存です。

最後になりますが、本研究を遂行するにあたりご指導ご鞭撻を賜りました横井毅先生、共同研究でお世話になりました諸先生、ならびに名古屋大学トキシコゲノミクス研究室の学生諸氏に心から感謝申し上げます。



織田 進吾

学会貢献賞を受賞して

あすか製薬株式会社創薬研究本部 久田 茂

非常に戸惑いましたが、第1回の学会貢献賞を賜りまして誠にありがとうございます。

私は広報小委員会には、2012～2014年には副委員長として、2014年～2020年までの3期6年間には小委員長として学会ホームページの維持管理に携わってきました。委員長としての6年間には熊谷先生、佐藤雅彦先生、小椋康光先生が学術広報委員長を務められ、永沼先生にはこの期間を通して、姫野先生には2014年からの1期目にお世話になりました。2003年に更新された旧HPには当時様々な問題が出ておりました。HPを全面更新するとの熊谷先生の指令により、2015年からHPの見直しを開始し、同年6月の理事会でHPの全面改定が決定された後、本格的に改定を進めました。改定は、①メニューバーの一本化を含めたトップページデザインの更新、②HP構成の見直し、③年間更新スケジュールの決定、④掲載審査体制の確立を中心に進めました。新HPは翌2016年2月に理事会による承認を経て2月16日に公開されました。英語版は6月に公開しました。公開後は、タイムリーな更新、掲載依頼案件への対応に努め、2017年および2019年にもHPの一部を改定しました。

2014年からの委員であった橋本愛先生および伊藤志保先生、松山幸恵様及び学会事務局の方々、岩淵あやか様をはじめとする(株)仙台共同印刷の方々の強力なサポートにより、元来いい加減な私がなんとか毒性学会HPの更新とその後の維持管理を続けることが出来ました。

委員長の3期目には現在の委員の先生方も加わってHP管理を引き継いでいただき、古参の私たちは、昨年8月に引退しました。大変だった日々の記憶はすっかり薄れてしまいましたが、今回の原稿執筆にあたり当時を思い出し、お世話になった多くの方々に改めて感謝申し上げる次第です。



久田 茂

田邊賞を受賞して

花王(株)安全性科学研究所 宮澤 正明

この度は私達の論文“Adjustment of a no expected sensitization induction level derived from Bayesian network integrated testing strategy for skin sensitization risk assessment”に対して、2021年度日本毒性学会田邊賞という栄誉ある賞を賜りまして大変光栄に存じます。選考委員および学会関係の諸先生方に心から御礼申し上げます。

消費者に安全で安心な商品を届けるためには、安全性を精緻に評価する必要があります。花王の商品はその多くが皮膚に触れるため、配合する原料の皮膚アレルギー性(感作性)の評価は特に重要です。そこで、花王では2000年から現在まで、動物を用いない精緻な感作性評価技術の開発と普及を進めています。

本研究では、皮膚感作という複雑な生体现象を正確に捉えるために、感作過程で重要となる応答を再現した複数の代替法の結果に対して機械学習モデルを組合せることで、動物実験と同等以上の精度で評価できることを示しました。

本論文が2021年度日本毒性学会技術賞と合わせて受賞できたことは、著者一同、非常に嬉しく思っております。我々の成果が多方面に認めていただけたことを励みにして、今後の研究活動を進め、微力ながら日本毒性学会に貢献してまいりたい、と考えております。



宮澤 正明

大坪 裕紀

西條 拓

水町 秀之

齋藤 和智

坂口 斉

田邊賞を受賞して

資生堂グローバルイノベーションセンター 久木 友花

この度は、2021年度日本毒性学会田邊賞という名誉ある賞を賜りまして大変光栄に存じます。選考委員の諸先生方に心より御礼申し上げます。

これまで代替法開発の中心であった *in vitro* 法は当然ながら重要な手法の1つではある一方、過去に取得された膨大な動物実験結果をいかに活用できるかが今後の代替法開発において重要と考えています。そのうえで注目されるのが、毒性既知の類似化合物のデータから目的化合物の毒性を予測する read-across です。近年、多くの公的機関等が read-across による評価を認めてきているものの、類似化合物の選出方法や最終判断はルール化が難しく、最後はエキスパートジャッジに頼らざるを得ないことが普及への課題とされています。

そこで本研究では、再現可能な read-across の手法を、バルプロ酸の反復投与毒性および発生毒性の予測をケーススタディとして示しました。今回はリスク評価において必須となる無毒性量の定量的予測にまで踏み込んでいます。既存の非線形解析法 Artificial

Neural Network により構築された予測モデルと組み合わせることで、精度の良い毒性予測が可能であると考えています。今回の受賞を励みに、read-across を活用した安全性評価法の開発および普及に向けて邁進するとともに、微力ながら毒性学の実践に貢献できるよう尚一層の努力を続け行く所存です。



久木 友花

最後にこの場をお借りして、論文投稿に至るまでに多大なるご指導ご鞭撻をいただきました先生方や、関係者の皆さまに心より感謝申し上げます。今後とも一層のご指導を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

田邊賞を受賞して

花王株式会社 安全性科学研究所 天野 雄斗

この度は 2021 年度日本毒性学会田邊賞という名誉ある賞を賜りまして、大変光栄に存じます。

全身毒性の代替法は未だ確立された手法はありませんが、in silico (AI) の活用はブレイクスルーが期待される技術です。しかしながら、AI 技術は予測結果につながるメカニズムを説明することが難しいという課題がありました。本研究では、全身毒性の中でも心血管系、中枢神経系、消化器系に対して、化合物と標的タンパク質の相互作用 (CPI) 情報を用いて予測結果への寄与が高いタンパク質を抽出可能な副作用予測モデルを構築することで、メカニズム推定が可能な予測技術の開発を試みました。さらに、データが欠損している CPI 情報を予測により補完することで、その説明可能範囲を拡大しました。

その結果、構築した予測モデルは、既存技術と同等以上の予測精度を示すことが確認されました。さらに、各予測モデルにおいて寄与の高いタンパク質を対象にエンリッチメント解析を行うと、それぞれの生理機能や副作用との関連が知られるタンパク質が多く含まれていることが確認されました。これらの結果から、今回構築した予測モデルは、副作用の陽性/陰性だけでなく、メカニズム推定まで含めた予測を行うことが出来るため、評価初期の戦略構築に有

用であることが示唆されました。

最後になりましたが、このような名誉ある田邊賞を賜り、日本毒性学会理事長の菅野純先生、田邊賞選考小委員長の諫田泰成先生、共同研究として本研究に取り組んでくださいました九州工業大学の山西芳裕先生、澤田隆介先生、並びに関係する皆様に厚く御礼申し上げます。



ファイザー賞を受賞して

エーザイ株式会社 渡 隆爾

この度は、我々の論文“A long-term culture system based on a collagen vitrigel membrane chamber that supports liver-specific functions of hepatocytes isolated from mice with humanized livers”に対して、2021 年ファイザー賞を賜りましたこと、大変光栄に思っております。2019 年に受賞した日本毒性学会技術賞に続いて、本研究を高く評価くださいました選考委員の先生方、ならびに学会関係者の先生方に、共著者を代表いたしまして厚く御礼申し上げます。

本研究は、従来単層培養法の課題である、培養中に肝機能が短期間で低下する、1 週間以上の長期培養が難しいという問題を解決することを念頭に検討いたしました。本課題に対して、コラーゲンビトリゲル膜という新規培養素材に、ヒト肝置換キメラマウスから調製したヒト肝細胞 (PXB-cells) を播種した新規肝細胞長期培養法 (ビトリゲル培養法) を提案いたしました。本培養法により、従来法と比べて、肝機能の指標であるアルブミン分泌や尿素合成が有意に高まり、3 週間の長期培養が可能となりました。さ

らに、培養 14 日目以降では、肝代謝に関わる主要な酵素である CYP 代謝活性の向上が認められました。現在、ビトリゲル培養法は、高い代謝活性を長期に維持することから、肝代謝型化合物のヒト肝クリアランス予測への適応、肝毒性の原因とされる反応性代謝物を同定し、予期せぬ肝毒性を未然に防ぐ評価系への活用を目指し、研究を実施しております。



渡 隆爾

本培養法が、薬物動態ならびに肝毒性評価の研究に微力ながら貢献できますと幸いです。

最後になりましたが、本研究は産官学の多くの諸先生方のご指導、ご助言を賜りました。この場をお借りして深く感謝申し上げます。

ファイザー賞を受賞して

東京都健康安全研究センター 坂本 義光

この度は、我々の論文「Comparative study for carcinogenicity of 7 different multi-wall carbon nanotubes with different physicochemical characteristics by a single intraperitoneal injection in male Fischer 344 rats」に対して、日本毒性学会ファイザー賞という栄誉ある賞をいただき、大変光栄に存じます。JTS編集委員長の鍛冶利幸先生をはじめ関係する諸先生方に感謝申し上げます。

多層カーボンナノチューブ (MWCNT) の生体影響については、2008年に中皮腫誘発性が報告され、その後吸入曝露や経気管投与実験による肺発がん性も報告されております。しかしMWCNTの種類や実験条件によって、腫瘍誘発性の有無や程度が異なることを示唆する報告もあり、MWCNTの毒性評価における、その物理化学的性状の把握が重要であると考えておりました。本論文では、7種のMWCNTについて、繊維サイズや含有金属量などの物理化学的性状と、MWCNTの中皮腫誘発性との関係を比較観察し、1) 繊維サイズ(長さ・太さ)および形状が中皮腫誘発性には重要因子であること、2) MWCNT中のFe含量と中皮腫誘発性に関連性がないことを示しました。本論文がMWCNTの性状および中皮腫誘発性

に関する論文として、2012年度の受賞に続き二度目の受賞となりましたことは、著者一同大変嬉しく思っております。我々の結果がMWCNTの毒性評価において、基礎データとして、その一助となれば幸いです。

最後に、試料をご提供頂いた三井物産株式会社、昭和電工株式会社、日機装株式会社、戸田工業株式会社の関係者の皆様、また国立医薬品食品衛生研究所および当センターの共同研究者の皆様にご心より御礼申し上げます。



左より北條、坂本、中江

ファイザー賞を受賞して

福山大学 薬学部・大学院薬学研究科 衛生薬学研究室 竹田 修三

この度、我々の論文「Bisphenol AF as an activator of human estrogen receptor $\beta 1$ (ER $\beta 1$) in breast cancer cell lines: *J. Toxicol. Sci.*, 43: 321-327, 2018)」に対してファイザー賞という誉れ高き賞を賜り、大変光栄に存じます。ここに著者を代表いたしまして、関係者の皆様にご感謝申し上げます。

ビスフェノール AF (BPAF) は、ビスフェノール A に替わる次世代ビスフェノールとしてその使用量が増加しています。親化合物であるビスフェノール A と類似した内分泌かく乱影響が懸念されておりましたが、十分な基礎的な解析はなされていませんでした。本論文は、BPAFによる女性ホルモン様作用について、2種類の細胞系 (MDA-MB-231, SK-BR-3) をモデルとして、BPAFが環境、生体サンプル中で見出された濃度レベルでの影響を解析したものです。BPAF存在下、一過性に発現したエストロゲン受容体 α/β (ER α/β) によるエストロゲン応答配列の活性化を指標としたレポーター遺伝子アッセイを行ったところ、EC₅₀の値で、ER α -24.7 nM, ER β -6.87 nM in MDA-MB-231, ならびに ER α -181 nM, ER β -2.58 nM in SK-BR-3 という結果が得られました。2細胞系での結果ではありますが、BPAFは、ER α と比べて、より効果的な ER β に対する活性化作用があ

ることが判明しました。さらに、BPAFによるER β 活性化は、PHTPP (ER β の特異的なアンタゴニスト) により完全に抑制されたこと、および同濃度域でER β の発現は変化しなかったことから、BPAFはER β に対するアクチベーターとして作用する可能性が示唆されました。

最後になりますが、本研究は、第一薬科大学の岡崎裕之博士と広島国際大学の平尾雅代博士の努力の賜物です(顔写真参照)。加えて、昼夜を問わず励んだ学生のみなさんの力が不可欠でした。この場をお借りして心より御礼申し上げます。



左：岡崎 裕之、右：平尾 雅代

ファイザー賞を受賞して

大塚製薬株式会社 瀬川 雅博

この度は、“Increased susceptibility to troglitazone-induced mitochondrial permeability transition in type 2 diabetes mellitus model rat” に対し、荣誉あるファイザー賞を賜り大変光栄に存じます。

薬物性肝障害 (DILI) の発症機序には薬物固有の要因と患者の個体要因が存在しますが、後者については不明な点が多く、また、肝毒性誘発薬物の多くがミトコンドリア (Mt) 機能障害を惹起することから、本論文では肝 Mt 薬物感受性の変動が DILI 発症の一因になると仮定し、感受性の違い及び感受性を決定する要因の探索を目的として、II 型糖尿病モデル ZDF fa/fa ラットの肝 Mt 機能に対する肝毒性誘発薬物 トログリタゾンの影響を検討しました。その結果、Mt 膜透過性遷移の感受性増強が認められ、糖尿病を背景とした酸化ストレスによる Mt 脂質の過酸化が Mt 機能変化を引き起こすことを見出しました。これは、肝 Mt が肝毒性誘発薬物の標的となるだけでなく、疾病などの個体要因の影響も強く受けること、また、

薬物感受性の決定要因の 1 つとして肝 Mt 構成脂質が関与することを示しています。今後も謙虚な姿勢で科学と向き合い続け、毒性学の更なる発展に貢献してゆきたいと考えております。

最後になりますが、本研究を遂行するにあたりご指導ご鞭撻を賜りました千葉大学大学院薬学研究院の伊藤晃成教授、関根秀一講師 (現 株式会社 資生堂)、またご指導、ご協力いただきました佐藤智之博士 (現 国立研究開発法人 産業技術総合研究所) をはじめ、関係者の皆様にご心より御礼申し上げます。



瀬川 雅博

ファイザー賞を受賞して

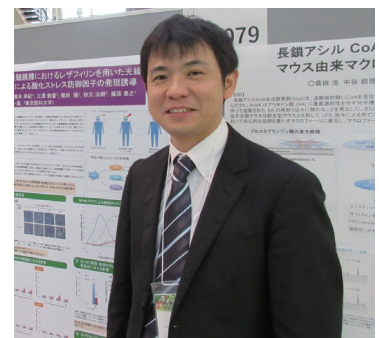
東京薬科大学 薬学部 高橋 勉

この度は、我々の論文「Photodynamic therapy using talaporfin sodium induces heme oxygenase-1 expression in rat malignant meningioma KMY-J cells」に対して、2021 年度の日本毒性学会ファイザー賞という名誉ある賞を賜りまして大変光栄に存じます。受賞対象となった論文は、東京薬科大学および東京医科大学の学生・先生方との共同研究の成果となります。

光線力学的療法 (photodynamic therapy: PDT) は、光感受性物質の腫瘍集積性と励起用レーザー照射後の光化学反応を利用し、腫瘍細胞選択的に活性酸素を発生させることによって細胞死を誘導する副作用の少ない治療法として注目されています。我々は、これまでに光感受性物質であるタラポルフィンナトリウム (TS) の脳腫瘍治療への有効性を細胞レベルで明らかにしてきました。受賞対象となった論文では、TS を用いた PDT (TS-PDT) によって、細胞内防御

因子のヘムオキシゲナーゼ -1 (HO-1) が発現誘導され、その阻害剤によって PDT の殺細胞効果が高まることを見出しました。今後、HO-1 をはじめとする細胞内防御応答メカニズムの解明研究を進め、TS-PDT の治療効果の向上を目指すとともに、微力ながら日本毒性学会の発展に貢献出来るよう努めていく所存です。

最後に、ファイザー賞受賞にあたり、日本毒性学会理事長の菅野純先生、ファイザー賞選考委員長の鍛冶利幸先生ならびに関係する諸先生方に厚く御礼申し上げます。



高橋 勉

ファイザー賞を受賞して

国立環境研究所 環境リスク・健康領域 Tin Tin Win Shwe

私は国立環境研究所 環境リスク・健康領域のティンティン ウィンシュエイ (Tin Tin Win Shwe) です。私たちの論文が2021年度において日本毒性学会により被引用回数が多い論文の一つに選ばれ、ファイザー賞を受賞したことを大変嬉しく思っております。ファイザー社および日本毒性学会の関係者の方々に私と共著者よりお礼を申し上げます。論文のタイトルは「バルプロ酸誘発性自閉症のラットモデルにおける社会的行動、神経免疫マーカーおよびグルタミン酸デカルボキシラーゼレベル」であり、その内容は自閉症研究に貢献できるものだと考えます。またこの研究は母国のミャンマーの研究者たちとの共同研究の成果でもあるのでミャンマーと日本の両方の若い研究者のモチベーションを上げることにもつながると思います。この研究は、科学研究費助成事業 (C)

JSPS 科研費 (16K00577), および国立環境研究所 (1517AO002) によって財政的に支援されました。興味を持って本論文を読んで下さった研究者の方々に礼を申し上げます。私にとって今回は2回目のファイザー賞で、1回目は2018年度に共著者として受賞しました。今後もこのような立派な賞を頂けるように頑張りたいと思います。日本毒性学会とファイザー社の発展を心からお祈りしております。



Tin Tin Win Shwe

技術賞を受賞して

花王株式会社 安全性科学研究所 西條 拓

この度は、「感作閾値を応用した新規皮膚感作性リスク評価手法の確立」について、栄誉ある賞を賜り、大変光栄に存じます。選考委員の先生方および学会関係者の先生方に厚く御礼申し上げます。

近年の動物実験に対する法規制や動物愛護の観点から、動物を用いずに安全性を評価する手法の開発が進められています。これまで皮膚感作性リスク評価法として、「それ以下の暴露量では皮膚感作性影響が現れないとするヒト暴露量の閾値」として、感作強度に対応する化学構造分類に基づき種々の Dermal Sensitization Threshold (DST) が提案されてきました。しかし、植物エキスなど複雑な混合物中の未知成分を網羅的に定性・定量分析することは困難なため、未知成分の暴露量が少ないからといって、未知成分を含む混合物に化学構造分類に基づく DST を適用することはできません。

そこで本研究では、OECDにおいてガイドライン化された *in vitro* 試験法である KeratinoSens™

と human Cell Line Activation Test における感作性物質の検出濃度をもとに、*in vitro* 試験法で陰性と判定された混合物の感作閾値「mixture DST」を導出しました。*In vitro* 試験法と DST の考え方を統合した本手法は、複雑な混合物にも適用可能な皮膚感作性リスク評価手法として活用が期待されます。

今回の受賞を励みに、今後も実運用可能な皮膚感作性リスク評価法の開発に取り組んでいく所存です。最後に、本研究を遂行するにあたりご指導ご鞭撻を賜りました関係者の皆様に、この場をお借りして深く感謝申し上げます。



西條 拓

技術賞を受賞して

千葉大学大学院薬学研究院 青木 重樹

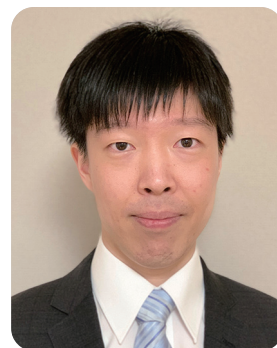
この度は、「ヒト HLA トランスジェニックマウスを用いた特異体質薬物毒性理解への取り組み」について、日本毒性学会技術賞という荣誉ある賞を賜りまして、大変光栄に存じます。選考委員および学会関係の諸先生方に厚く御礼申し上げます。

薬物毒性の個人差は非常に難しい問題で、それをどのように回避するかという点が大きな課題となっています。我々は、特にヒト白血球抗原 HLA の多型が薬物毒性の発症と強く関連することに着目し、動物モデルを用いてメカニズムの解明を試みています。しかし、ヒトで発現している HLA をそのままマウスに導入するだけでは、正常な機能を発揮することができません。そこで、ヒトにおける HLA の役割は保持しつつ、マウス体内で免疫機能を惹起できるよう改変を行い、多型特異的な薬物応答の再現に成功しました。さらに、本モデルを用いた詳細な解析から、免疫の活性化だけでなく抑制系にも目を向けることが毒性理解に重要であることが示唆され、免疫抑

制系の違いも毒性発症の有無を決める要因になると考えています。

これからも解明しなければならない点は多く残されており、動物実験を代替できる評価法の構築も望まれます。構築したモデルマウスから得られる知見を最大限に有効活用し、将来的には毒性予測・回避が実現できることを期待しています。

最後になりましたが、本研究を遂行するにあたりご指導・ご鞭撻を賜りました千葉大学大学院薬学研究院の伊藤晃成教授、共同研究企業の皆様に心より御礼申し上げますとともに、実験等にご協力いただいた当研究室の学生・卒業生に深く感謝いたします。



青木 重樹

第48回日本毒性学会学術年会報告

第48回日本毒性学会学術年会の開催に際しましては、会員各位並びに関係者各位のご協力によりまして、はじめてのハイブリッド開催にもかかわらず、盛会のうちに終えることができました。心より厚く御礼申し上げます。

以下に本学術年会の概要をご報告いたします。

年会長 福井 英夫
(Axcelead Drug Discovery Partners 株式会社)

1. 会 期

2021年7月7日(水)～7月9日(金)
(第18回市民公開セミナー：7月10日(土))

2. 会 場

神戸国際会議場

3. 特別企画

年会長招待講演：1
特別講演：3
教育講演：8
シンポジウム：29
ワークショップ：8
市民公開セミナー：1

4. 一般演題

口演：41題
ポスター：202題
(うち優秀研究発表賞応募演題28題、
学生ポスター発表賞応募演題44題)

5. 参加者数

年会：1,420名(招待者含む)
市民公開セミナー：40名

6. 優秀研究発表賞受賞者

P-1E 水野 忠快
(東京大学大学院薬学系研究科分子薬物動態学教室)
研究題目：低分子化合物プロファイルデータの作用分離解析による構造類似化合物の相違点の評価

P-2E 平野 哲史

(富山大学 研究推進機構 生命科学先端研究支援ユニット)
研究題目：タンパク質分解系を指標としたピレスロイド系農薬デルタメトリンによる神経毒性メカニズムの解析

P-36E 田中 美樹

(広島大学大学院 統合生命科学研究科 生命医科学プログラム)
研究題目：微小粒子状物質 (PM2.5) 曝露による虚血性炎症の亢進と脳梗塞予後の増悪

P-106E 向井 美穂

(塩野義製薬株式会社)
研究題目：ユーロガイドに準拠したケージでペア飼育したイヌの社会行動解析による薬剤誘発性の精神障害評価の試み

P-166E 相澤 聖也

(ライオン株式会社 研究開発本部 安全性科学研究所)
研究題目：ヒト3次元培養口腔粘膜モデルを用いる口腔粘膜刺激性試験代替法の開発－刺激性／無刺激性区分のためのクライテリアの検証－

7. 学生ポスター発表賞受賞者

P-3S 工藤 琉那

(東北大学薬学部代謝制御薬学分野)
研究題目：メチル水銀によるセレンメタボリズム攪乱を介した抗酸化システム脆弱化機構

P-46S 長岡 茉唯

(金沢大学医薬保健研究域薬学系薬物代謝安全性学研究室)
研究題目：Aadac ノックアウトマウスを用いたケトコナゾールによる毒性発症メカニズムの解明

P-107S 佐々木 貴熙

(東北大学大学院農学研究科動物生殖科学分野)
研究題目：アセフェートの発生-発達期慢性ばく露による成熟後のマウス行動影響と腸内細菌叢の解析

P-121S 山田 侑杜

(東北大・院薬・衛生化学)
研究題目：DNA 損傷様式によって異なるトランス脂肪酸の細胞死シグナル促進機構

P-125S 池山 佑豪

(千葉大学大学院薬学研究院生物薬剤学研究室)

研究題目：アセトアミノフェン肝障害発症における血小板でのミトコンドリア透過性遷移の関与の可能性

8. 協賛

企業（団体）展示：54社・団体

ランチョンセミナー：17セミナー

広告掲載（要旨集，ホームページ等）：30社・団体

協賛企業・団体：58社・団体

9. 年会事務局

Axcelead Drug Discovery Partners 株式会社

事務局長：大塚 博比古

事務局次長：吉田 唯真, 林 良太

第 48 回日本毒性学会学術年会要旨集の販売について

第 48 回日本毒性学会学術年会の要旨集を 1 部 3,500 円（税・送料込）で販売します。ご希望の方は郵便局に備付けの郵便振替用紙に必要事項をご記入の上、下記口座までお振り込み下さい。ご納入確認後、要旨集を発送致します。

なお、学術年会（第 32 回以降）の要旨はオンライン（J-STAGE）でも閲覧が可能です（<http://www.jstage.jst.go.jp/browse/toxp/-char/ja>）。

| | |
|----------|----------------|
| 振込先：口座番号 | 00150-9-426831 |
| 加入者名 | 一般社団法人日本毒性学会 |
| 要旨集価格 | 3,500 円（1 部） |

通信欄記入事項：①住所 ②氏名（団体の場合は機関名・部署等）③電話番号
④第 47 回学術年会要旨集希望の旨

※通信欄のご記入住所へ送本致します。詳細なご記入をお願い致します。

問い合わせ先：日本毒性学会事務局
〒100-0003 東京都千代田区一ツ橋 1-1-1
パレスサイドビル
株式会社毎日学術フォーラム内
TEL：03-6267-4550 FAX：03-6267-4555
E-mail：jsothq@jsot.jp

第49回日本毒性学会学術年会のご案内（第2報）

（年会ホームページ：<http://www.jsot2022.jp/>）

1. 会期

2022年6月30日（木）～7月2日（土）

2. 会場

札幌コンベンションセンター

〒003-0006 札幌市白石区東札幌6条1丁目1-1

TEL：011-817-1010

URL：<https://www.sora-scc.jp/>

3. テーマ

One Health と毒性学

4. 年会長

石塚真由美

（北海道大学大学院獣医学研究院 環境獣医科学分野毒性学教室）

5. プログラム委員（敬称略・五十音順）

鈴木 陸（協和キリン（株））

高橋 祐次（国立医薬品食品衛生研究所）

広瀬 明彦（国立医薬品食品衛生研究所）

吉成 浩一（静岡県立大学）

6. 一般演題募集

一般演題（口演およびポスターでの発表）を2022年1月中旬から受け付ける予定です。

主発表者（プレゼンター）は本学会会員に限りませんので非会員の方は、日本毒性学会事務局にて入会の手続きをお願いします。

日本毒性学会ホームページ：<http://www.jsot.jp>

なお、ポスターとスライド作成は、原則英語となります。

7. 優秀研究発表賞応募募演題

2022年3月31日時点で35歳以下の方を対象として候補者を募集します。

8. 学生ポスター発表賞応募募演題

学術年会（2022年6月30日（木））の時点で学生（大学院生を含む、ただし社会人大学院生は除く）のポスター発表（筆頭著者）の方を対象として候補者を募集します。

※7、8の賞への重複申請は不可とします。

9. 特別企画

年会長招待講演，特別講演，教育講演，シンポジウム，ワークショップ，キャリア形成支援プログラム，市民公開セミナーを企画予定です。

10. ランチョンセミナーなどの募集

ランチョンセミナー，広告掲載，企業・関連団体展示を募集します。詳細については追ってご案内します。

11. 参加登録と演題申込

学術年会ホームページからのオンライン登録となります。

詳細についてはホームページをご覧ください。

年会ホームページ：<http://www.jsot2022.jp/>

演題登録

2022年1月12日（水）～2月28日（月）（予定）

事前参加登録

2022年1月12日（水）～5月11日（水）（予定）

12. 年会事務局

〒060-0818 札幌市北区北18条西9丁目

北海道大学大学院獣医学研究院 環境獣医科学分野毒性学教室

事務局長：中山 翔太

E-mail：secretariat@jsot2022.jp

2022 年度日本毒性学会 特別賞 候補者推薦要領

社会における毒性学の認知度の向上, 発展, 充実に大きく貢献した非会員の研究者に日本毒性学会特別賞を授与する。

候補者の資格: 日本毒性学会非学会員。

推薦者の資格: 日本毒性学会理事。

表彰: 授賞者数は毎年, 最大1名とし, 賞状および副賞を授与する。授賞式は日本毒性学会学術年会の総会終了後に行う。

受賞講演: 受賞者(或いは代理人)は日本毒性学会学術年会にて受賞講演を行う。

候補者の推薦: 理事1名の推薦を必要とする。推薦者は, 受賞候補者に関する下記事項を所定用紙に記入し, 日本毒性学会理事長宛(事務局)に電子メールで提出する。

- ・推薦書(候補者氏名, 授賞タイトルを所定の用紙に記入したもの)
- ・推薦理由(1,000字以内)
- ・特別賞の対象となる業績目録: 原著論文, 総説・著書, 主催, 発表等

推薦書類の送付先: jsotq@jsot.jp
(日本毒性学会事務局)

推薦締切: 2021年12月31日(金)

2022 年度日本毒性学会 学会賞 候補者推薦要領

毒性学に関連する顕著な研究業績をあげ、かつ日本毒性学会の発展充実に大きく貢献した本会会員に日本毒性学会学会賞を授与する。

候補者の資格：現に 10 年以上継続して日本毒性学会の会員であり、授賞年度の 4 月 1 日に満 65 歳以下である者。ただし、推薦される研究課題で既に他学会等の賞を受けている者は対象とならない。

推薦者の資格：日本毒性学会評議員。

表彰：授賞者数は毎年 1 名とし、賞状および副賞を授与する。授賞式は 2022 年度の日本毒性学会学術年会の総会終了後に行う。

受賞講演：受賞者は 2022 年度の日本毒性学会学術年会にて受賞講演を行う。

候補者の推薦：評議員 1 名の推薦を必要とする。推薦者は、受賞候補者に関する下記事項を所定用紙に記

入し、日本毒性学会理事長宛（事務局）に電子メールで提出する。なお、所定用紙（Word ファイル）は日本毒性学会ホームページ（<http://www.jsot.jp/award/index.html>）からダウンロードして使用すること。

- ・推薦書（候補者氏名、略歴、会員歴等を所定の用紙に記入したもの）
- ・推薦理由（2,000 字以内）
- ・学会賞の対象となる業績目録：原著論文（J.Toxicol. Sci. または Fundam. Toxicol. Sci. に掲載論文には丸印を付ける）、総説・著書
- ・過去 5 年間に日本毒性学会学術年会で発表した一般講演演題リスト（共同著者となっている演題を含む）

推薦書類の送付先：jsotq@jsot.jp
（日本毒性学会事務局）

推薦締切：2021 年 12 月 31 日（金）

2022 年度日本毒性学会 奨励賞 候補者推薦要領

毒性学に関する研究において独創的な研究業績をあげつつあり、将来が期待される本会会員に日本毒性学会奨励賞を授与する。

候補者の資格：現に3年以上継続して日本毒性学会の会員であり、授賞年度の4月1日に満40歳以下である者。ただし、推薦される研究課題で既に他学会等の賞を受けている者は対象とならない。

推薦者の資格：日本毒性学会評議員。

表彰：授賞者数は毎年3名以内とし、賞状および副賞を授与する。授賞式は2022年度の日本毒性学会学術年会の総会終了後に行う。

受賞講演：受賞者は2022年度の日本毒性学会学術年会にて受賞講演を行う。

候補者の推薦：評議員1名の推薦を必要とする。推薦者は、受賞候補者に関する下記事項を所定用紙に記入し、日本毒性学会理事長宛（事務局）に電子メールで提出する。なお、所定用紙（Word ファイル）は日本毒性学会ホームページ（<http://www.jsot.jp/award/encourage.html>）からダウンロードして使用すること。

- ・推薦書（候補者氏名、略歴、会員歴等を所定の用紙に記入したもの）
- ・推薦理由（2000字以内）
- ・奨励賞の対象となる業績の目録：原著論文（J.Toxicol. Sci. または Fundam. Toxicol. Sci. に掲載論文には丸印を付ける）、総説・著書
- ・過去3年間に日本毒性学会学術年会で発表した一般講演演題リスト（共同著者となっている演題を含む）

推薦書類の送付先：jsotq@jsot.jp
（日本毒性学会事務局）

推薦締切：2021年12月31日（金）

2022 年度日本毒性学会 佐藤哲男賞（国際貢献賞） 候補者推薦要領

毒性学に関連する顕著な研究業績をあげ、かつ日本毒性学会の発展充実に大きく貢献した本会会員に日本毒性学会佐藤哲男賞（国際貢献賞）を授与する。

候補者の資格：現に10年以上継続して日本毒性学会の会員であるもの。ただし、推薦される研究課題で既に他学会等の賞を受けているものは対象とならない。

推薦者の資格：日本毒性学会評議員1名。

表彰：授賞者数は毎年、最大1名とし、賞状および副賞を授与する。授賞式は日本毒性学会学術年会の総会終了後に行う。

受賞講演：受賞者（或いは代理人）は日本毒性学会学術年会にて受賞講演を行う。

〈備考〉

一般社団法人日本毒性学会 佐藤哲男賞（国際貢献賞）選考規程

平成31年1月25日 制定
令和2年12月9日 改定

- 第1条 設置：日本毒性学会は、本会における佐藤哲男博士の国際的及び学術的貢献に敬意を表し、佐藤哲男賞（国際貢献賞）を設ける。
- 第2条 授賞の対象：毒性学に関連する研究、後進の育成を含めた毒性学教育と共に毒性学分野における国際活動において優れた貢献を果たした本会会員に授与する。
- 第3条 候補者の資格及び推薦条件：現に10年以上継続して日本毒性学会の会員であるもの。
- 第4条 表彰：授賞者数は毎年1名とし、賞状および副賞を授与する。授賞式は当該年度の日本毒性学会学術年会の総会にて行う。
- 第5条 受賞講演：受賞者は当該年度の日本毒性学会学術年会にて受賞講演を行う。
- 第6条 候補者の推薦：評議員1名の推薦を必要とする。推薦者は、授賞候補者に関する所定書類を日本毒性学会理事長（事務局）に12月31日までに提出する。
1. 推薦書（候補者氏名、略歴、会員歴、本会における委員等の職歴等を所定の用紙に記入したもの）
 2. 推薦理由（1,000字以内）
 3. 当賞の対象となる業績目録：原著論文（J. Toxicol. Sci. または Fundam. Toxicol. Sci. に掲載された論文に丸印を付ける）、総説・著書、依頼・招待講演（毒性学教育に関するものに限る、日本毒性学会学術年会で発表した演題には丸印を付ける）

候補者の推薦：推薦者は、受賞候補者に関する下記事項を所定用紙に記入し、日本毒性学会理事長宛（事務局）に電子メールで提出する。

- ・推薦書（候補者氏名、授賞タイトルを所定の用紙に記入したもの）
- ・推薦理由（1,000字以内）
- ・佐藤哲男賞（国際貢献賞）の対象となる業績目録：原著論文、総説・著書、主催、発表等

推薦書類の送付先：jsotq@jsot.jp
（日本毒性学会事務局）

推薦締切：2021年12月31日（金）

4. 過去5年間に日本毒性学会学術年会で発表した一般講演演題リスト（共同著者となっている演題を含む）

第7条 選考：

1. 当賞の選考は、佐藤哲男賞（国際貢献賞）・学会貢献賞選考小委員会が行う。
2. 選考小委員会委員長は理事長と学術広報委員長が協議の上指名し、委員は学術広報委員長と小委員会委員長が協議の上、指名する。委員長および委員の任期は1年とし、再任はさまたげない。
3. 選考小委員会委員長及あるいは選考委員が候補者と同一の講座（大学以外の機関はこれに準ずる部局）に所属する場合、受賞者決定の採決には加わらないものとする。
4. 選考小委員会は授賞者を選定し、選考委員長は、該当者なしの場合を含めて学術広報委員長及び理事長に報告する。
5. 選考方法等に関する申し合せは別途定める。

付 則 令和2年12月9日改定の本規定は同日から施行する。
付 記 令和2年度に限り、佐藤哲男賞（国際貢献賞）・学会貢献賞選考小委員会を佐藤哲男賞選考委員会と読み替える。

日本毒性学会教育委員会からのお知らせ（第5報）

教育委員会の各種事業は下記の要領で実施する予定です。詳細は決まり次第、学会ホームページおよび毒性学ニュースでお知らせします。

なお、学会主催講習会は、トキシコロジーに関する知識（基礎知識）を幅広く学習する基礎教育講習会とトキシコロジストとして学習を継続し知識をアップデート・ブラッシュアップする生涯教育講習会を開催しております。いずれの講習も動画配信形式で行います。視聴期間は限定されますが、ご都合に合わせて学習頂くことが可能となっております。

「第24回日本毒性学会認定トキシコロジスト認定試験」

我が国の安全性試験の信頼性向上とトキシコロジーの進歩に寄与するため、質の高い専門家を認定するための試験です。受験資格の詳細については、毒性学ニュース及び学会ホームページの『一般社団法人日本毒性学会認定トキシコロジストの認定制度規程』をご覧ください。日本語・英語いずれかの受験になります。英語受験を希望する場合は、願書の英語受験希望欄にチェックを入れてください。なお、本年度はコロナウイルス感染症対応策といたしまして、以下のスケジュールで進めさせていただきますが、緊急事態宣言やコロナ感染者数の増減を考慮しスケジュールを随時更新致しますので、今後のお知らせにご注意願います。

1. スケジュール

2021年12月5日(日):認定試験(9:45～17:00 予定)
予備日12月12日(日)

中止の場合

2021年度は認定試験を実施しない。

実施判断 11月2日(火)

願書受付締切 ～10月15日(金)

2. 会場

昭和大学 旗の台キャンパス

3. 受験料

30,000円

「第24回日本毒性学会基礎教育講習会」

新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、テキストおよび動画配信で実施いたしました。現在、受講者からのアンケートなどを分析し、第25回の実施要綱を検討中です。決定しだいお知らせします。

「第23回日本毒性学会生涯教育講習会」

本講習会では、学習フレームを、①トピックス、②トキシコロジスト・ブラッシュアップセミナーとして実施しております。

トピックスは、SOTの学術年会時に開催される教育コースから、2つのテーマを選び、新しい科学及び技術に関する最新のトピックスを学習する場としていきます。トキシコロジスト・ブラッシュアップセミナーでは、各種毒性反応について基礎メカニズムから社会的に最新の毒性学の話題を含め深く学習する場としていきます。また、学習テーマに関連する共通知識として「非病理学者のための病理学講義」をセミナーに組み入れていきます。

1. 日時

2022年学術年会開催時期

2. 形式

WEB

3. プログラム(仮)

- 1) トピックス SOT2022 CE コースから:2題。
演題・演者選定中
- 2) トキシコロジスト・ブラッシュアップセミナー:
“マイクロ/ナノマテリアル粒子による影響”

石橋 弘志先生(国立大学法人愛媛大学大学院)
「PFASsによる環境汚染と毒性影響評価(仮)」

高橋 祐次先生(国立医薬品食品衛生研究所)
「粒子毒性学 基礎」

中山 祥嗣先生(国立研究開発法人国立環境研究所)
「PFASの健康影響:疫学調査とメカニズム研究」

美谷島 克宏先生(東京農業大学)
「非病理担当者のための病理学講座～今さら聞けない特殊染色で何が分かるか(仮)」

4. 参加費（1日フルコースとして設定）

| | |
|------------|--------------|
| 事前申込 | |
| 会 員 | 5,000 円（予定） |
| 非会員 | 7,000 円（予定） |
| 認定トキシコロジスト | 3,000 円（予定） |
| 当日申込 | |
| 会 員 | 7,000 円（予定） |
| 非会員 | 10,000 円（予定） |
| 認定トキシコロジスト | 5,000 円（予定） |

米国毒性学会 (SOT) 教育コースへの派遣者公募

日本毒性学会教育委員会
委員長 鈴木 睦

日本毒性学会では、学会員を米国毒性学会 (Society of Toxicology, SOT) の学術年会時に開催される教育コース (Continuing Education Courses) に派遣する事業を行っております。本事業の目的は、当学会の次代リーダー候補に研鑽の機会を提供すること、および教育コースの受講成果を当学会に還元させることにより当学会の生涯教育システムの質や情報量を充実させ、学会のレベルアップを図ることにあります。

2022年度は2022年3月27-31日にサンディエゴにて開催予定のSOT教育コースのセミナーの中から、当委員会が指定するセミナーに計2名を派遣する計画です。

1. 対象者

派遣する学会員は以下の条件のいずれかを満たす方とします。

- 1) 会員歴5年以上の正会員(原則45歳以下とする)で、本人以外の当学会評議員の推薦を受けられる方
- 2) 1) に準じる方で、本人以外の当学会評議員の推薦を受けられる方

2. 派遣者への補助

当学会は派遣者に対し1) および2) に充当する費用として一人当たり一律に40万円を補助します。

- 1) 当年のSOTへの参加費用およびSOTの教育セミナー(教育委員会が指定するセミナーと派遣者が選択するセミナー各1コース)への参加費用
- 2) 日本国内の派遣者の居住地とSOT年会開催地間の往復航空運賃および宿泊費、その他旅行傷害保険等の諸経費

3. 派遣者の責務

派遣対象となった方には、以下の責務が求められます。

- 1) 当年のSOT教育セミナーの中から教育委員会が指定するセミナーを受講すること。
- 2) 2022年の当学会主催の生涯教育講習会等で講師を務め、受講したSOT教育コース、指定セミナーについての内容を報告すること。

4. 選考方法

教育委員会が書類審査により選考を行います。2021年11月の教育委員会で審査し、理事長の決裁をもって決定します。選考結果は、12月末までに応募者宛に郵便および電子メールにてお知らせします。

5. 申込み方法

2021年10月31日までに以下の4点の書類を事務局宛に提出してください(書類の形式は問いません)。郵送あるいは電子メールへの書類添付いずれも受け付けます。郵送の場合は封筒(表)に、電子メールの場合は件名に「SOT教育コース派遣応募」と明記してください。なお、頂いた個人情報は、事務局の方で厳重に管理し、派遣者選考のためにのみ使用し、選考者決定後に破棄いたします。

- 1) 申請書[形式自由、希望するセミナー(AまたはB)を選択して頂くことになります]
- 2) 履歴書[生年月日、当学会の会員番号、最終学歴、職歴(業務内容を簡潔に付記してください)、現在の専門分野、学会入会年度]
- 3) 研究業績一覧(直近5年を中心に記載してください)
- 4) 学会評議員の推薦状

6. 派遣セミナー

下記の2コースの公募を行います。派遣は、各コース1名、計2名といたします。

A コース

- ・指定セミナー: AM05: Importance of Sexual Maturity and Reproductive Senescence in Laboratory Animal

Models Age and reproductive status are often overlooked variables in mammalian nonclinical studies, but they can have a significant impact on the evaluation of the reproductive system, the interpretation of potential experimental- or test article-related findings, and ultimately the risk assessment.

- ・自由選択セミナー：午後に開催される B コース指定セミナー以外から選択してください。

B コース

- ・指定セミナー：PM09: Leading-Edge Microbiome Methods for Toxicological Applications
The human microbiome describes the collective genomes, and encoded functions, of the trillions of bacterial cells that live on and in the human body.
- ・自由選択セミナー：午前で開催される A コース指定セミナー以外から選択してください。

<https://www.toxicology.org/events/am/am2022/index.asp>

7. 申込み・問い合わせ先

一般社団法人 日本毒性学会 教育委員会
〒100-0003
東京都千代田区一ツ橋 1-1-1 パレスサイドビル
(株) 毎日学術フォーラム
TEL. 03-6267-4550 / FAX. 03-6267-4555
E-mail : jsothq@jsot.jp

一般社団法人日本毒性学会の定款および規程類について

日本毒性学会の定款および規程類については、最新版が学会ホームページ (http://www.jsot.jp/about/rule_list.html) に掲載されています。

特に重要な変更があった場合は、毒性学ニュースで周知を図ることとします。

- 一般社団法人日本毒性学会 定款
- 一般社団法人日本毒性学会 評議員選出規程
- 一般社団法人日本毒性学会 理事・監事選出規程
- 一般社団法人日本毒性学会 理事および監事候補の選出に関する細則
- 一般社団法人日本毒性学会 常置委員会共通規程
- 一般社団法人日本毒性学会 名誉会員・功労会員推薦規程
- 一般社団法人日本毒性学会 入会規程
- 一般社団法人日本毒性学会 賛助会員に関する規程
- 一般社団法人日本毒性学会 学会賞選考規程
- 一般社団法人日本毒性学会 特別賞選考規程
- 一般社団法人日本毒性学会 佐藤哲男賞（国際貢献賞）選考規程
- 一般社団法人日本毒性学会 学会貢献賞選考規程
- 一般社団法人日本毒性学会 奨励賞選考規程
- 一般社団法人日本毒性学会 技術賞選考規程
- 一般社団法人日本毒性学会 田邊賞選考規程
- 一般社団法人日本毒性学会 ファイザー賞選考規程
- 一般社団法人日本毒性学会 日化協 LRI 賞選考規程
- 一般社団法人日本毒性学会 認定トキシコロジストの認定制度規程
- 一般社団法人日本毒性学会 認定トキシコロジストの資格更新に関する細則
- 一般社団法人日本毒性学会 名誉トキシコロジスト表彰に関する細則
- 一般社団法人日本毒性学会 米国毒性学会教育コースへの学会員派遣に関する規程
- J. Toxicol. Sci. 投稿規程
- Fundam. Toxicol. Sci. 投稿規程
- 一般社団法人日本毒性学会 動物実験に関する指針
- 一般社団法人日本毒性学会 個人情報の適正な管理・利用等に関する基本方針
- 一般社団法人日本毒性学会 部会に関する規程

新しい発見を 変わらない品質で

私たち日本クレアは、生命のあらゆる可能性を探求し発展させる基盤として、動物愛護のグローバルな視点に立った世界最高品質の実験動物を提供して参ります。



マウス・ラット・マーモセット

● クローズドコロニー

- マウス** Jcl:ICR
- ラット** Jcl:SD, Jcl:Wistar
Br/Han:WIST@Jcl(GALAS)

● 近交種

- マウス** C3H/HeNjcl, C3H/HeJjcl*
C57BL/6Njcl, C57BL/6Jjcl*
BALB/cAjcl, BALB/cByJjcl*
FVB/Njcl, DBA/2Jjcl*, 129^{+Ter}/Svjcl
- ラット** F344/Jcl

● ハイブリッド系

- マウス** B6C3F1/Jcl, B6D2F1/Jcl
MCH(ICR)/Jcl (Multi Cross Hybrid)

● 疾患モデル

免疫不全モデル

- マウス** BALB/cAjcl-*nu*
C.B-17/ICr-*scid* Jcl
NOD/Shijic-*scid* Jcl
ALY[®]/NscJcl-*aly*

- ラット** F344/Njcl-*rnu*

1型糖尿病モデル

- マウス** NOD/Shijcl

2型糖尿病モデル

- マウス** KK/Tajcl, KK-A^y/Tajcl
BKS.Cg-*m*+/*Lepr^{db}*/Jcl*

- ラット** GK/Jcl, SDT/Jcl, SDT fatty/Jcl

アスコルビン酸合成能欠如モデル

- ラット** ODS/Shijcl-*od*

● 疾患モデル

網膜変性疾患モデル

- ラット** RCS/Jcl-*rdy*

関節リウマチモデル

- マウス** SKG/Jcl

外用保湿剤・外用殺菌消毒薬効果検証モデル

- マウス** NOA/Jcl

● 遺伝子改変動物

短期発ガン性試験モデル

- マウス** CByB6F1-Tg (HRAS)2Jic

乳腺がん高感受性モデル

- ラット** Hras128/Jcl

膵がん短期発がんモデル

- ラット** Kras301/Jcl

生体恒常性維持機構解析モデル

- マウス** *α*-Klotho KO/Jcl

- マウス** *klotho*/Jcl

アレルギーモデル

- マウス** OVA-IgE/Jcl (卵アレルギー)
TNP-IgE/Jcl (化学物質アレルギー)

● Germ free

- マウス** MCH(ICR)/Jcl [Gf], C57BL/6Njcl [Gf]
BALB/cAjcl [Gf]

● コモンマーモセット

- Jcl:C.Marmoset(Jic) (国内生産)

その他の取り扱い動物

● (公財) 実験動物中央研究所維持系統

● フェレット (輸入販売)

生産地：中華人民共和国／輸入販売代理店
(株)野村事務所を通じて国内販売

実験動物用飼料

一般動物用飼料／家畜・家禽試験用飼料／放射線減菌飼料／特殊配合飼料／成分分析

器具・器材

飼育ケージ／飼育機・ラック／自動飼育システム／クリーンエアシステム／バイオハザード対策システム／空調設備・排水処理システム／管理・実験機器／施設計画コンサルティング

受託業務

微生物学的クリーニング／遺伝子改変マウスの作製／モノクローナル抗体作製／受精卵採取・凍結処理／凍結受精卵の供給／系統維持及び生産／各種処置動物作出／マイクロバイオーム研究のサポート(無菌動物・ノトバイオームマウス作製および受託試験)／各種受託試験 他

関連業務

動物輸出入／微生物モニタリング／遺伝モニタリング／各種データ／情報サービス

業務提携

Physiogenex社(仏)：代謝性疾患領域に特化した薬効薬理試験受託サービス
(株)ジーピーシー研究所：イメージングマウスの作製サービス

* This substrain is at least (a number>20 by definition) generations removed from the originating JAX® Mice strain and has NOT been re-infused with pedigreed stock from The Jackson Laboratory.®



www.CLEA-Japan.com

| | | |
|---|-----------------------------|---------------------|
| 東京 A D 部 | 〒153-8533 東京都目黒区東山1-2-7 | TEL.03-5704-7050(代) |
| 大阪 A D 部 | 〒564-0053 大阪府吹田市江の木町6-5 | TEL.06-4861-7101(代) |
| 【動物・飼料のご注文先: AD受注センター TEL.03-5704-7123】 | | |
| 東京器材部 | 〒153-8533 東京都目黒区東山1-2-7 | TEL.03-5704-7600(代) |
| 大阪器材部 | 〒564-9953 大阪府吹田市江の木町6-5 | TEL.06-4861-7105(代) |
| 札幌出張所 | 〒063-0849 札幌市西区八軒九条西10-4-28 | TEL.011-631-2725(代) |
| 仙台出張所 | 〒983-0014 仙台市宮城野区高砂1丁目30-24 | TEL.022-352-4417(代) |

医薬品開発をトータルにサポート

探索試験

前臨床試験

臨床試験

申請対応

- High Quality -

高品質なデータの提供

- Globalization -

グローバルな事業展開

- Prompt Response -

迅速なサービスの提供

豊富な経験と充実した支援体制

- AAALAC International (国際実験動物ケア評価認証協会)

全施設で完全認証を継続



- FDA IND/NDA電子化申請対応 (CDISC SEND)

- 年間400試験を超えるバイオ医薬品の受託実績

- 最新機種を導入

① LSRFortessa X-20
(BD Biosciences)



② NanoZoomer S360
(Hamamatsu Photonics)



③ Triple TOF 6600 plus
(AB SCIEX)



お問い合わせ先
株式会社新日本科学

Web: <https://www.snbl.co.jp/> Email: info@snbl.co.jp TEL: 03-5565-6140
Copyright © SHIN NIPPON BIOMEDICAL LABORATORIES, LTD. All rights reserved



ケー・イー・シーでは医薬品の研究・開発にお使いいただける細胞・ヒト由来試料を取扱っております

研究用試薬

▶ HepaRG®・初代肝細胞



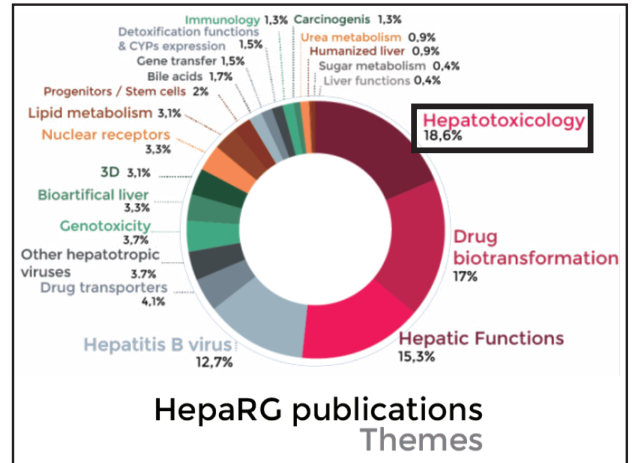
HepaRG®は、BIOPREDIC International社がライセンスを保有するヒト肝細胞セルラインです。肝細胞様形態を呈し、各種肝機能を保持・発現しており、ヒト初代肝細胞の代替ツールとして毒性試験および薬物動態などに広く利用されています。

【HepaRG®は様々な毒性評価に使用可能！】

- ①ミトコンドリア毒性の評価
- ②反応性代謝物による肝毒性評価
- ③炭水化物および脂質代謝評価
- ④胆汁うっ滞の評価

■ HepaRG®を使用した論文が多数発表されている中、毒性試験で多く使用されています！

また、弊社ではBIOPREDIC International社をはじめとして、様々なメーカーで調製された品質の良い初代肝細胞（ヒト、ラット、イヌ、サル等）もご用意しております。



▶ ECACC標準株細胞・核酸製品

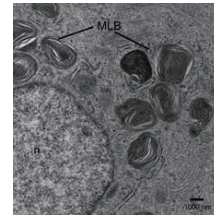
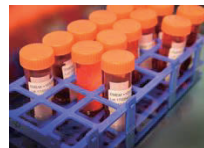


欧州最大の公的セルバンクであるECACCのセルリソース（標準株細胞・核酸製品）を、KAC独自のサービスとともに、**面倒な手続きなし***でお届けしています。

*：一部の細胞は、提供にあたり確認審査が必要になります。

【メリット！】

- ①スタンダードな株細胞は国内に常時在庫
- ②プラス5,000円で、培養状態での提供可能
- ③幾つかの起眠が難しい細胞はKACが代行
- ④KACによる迅速な技術サポート体制



▶ 肝毒性・腎毒性評価の受託試験



薬物トランスポーター研究のパイオニアであるSOLVO Biotechnology社にて、肝毒性・腎毒性評価試験などのサービスの提供も行っております。

【試験例】

- ①代謝が遅い化合物の肝毒性評価（ヒト、サル、ラット、イヌ）
（HepatoPac®：初代肝細胞と間質細胞のマイクロパターン共培養にて評価）
- ②早期腎障害バイオマーカーパネルを用いた腎毒性の可能性の評価 等



<https://www.saibou.jp/>

▶ これらの製品情報を細胞.jpでお調べ頂けます



株式会社 ケーイーシー

<https://www.kacnet.co.jp/>

お問い合わせ先

試薬事業部

TEL:06-6435-9747 FAX:06-6435-9748

e-mail: shiyaku-info@kacnet.co.jp

一般社団法人 日本毒性学会

【名誉会員】

| | | | |
|-------|-------|-------|-------|
| 今道 友則 | 堀口 俊一 | 福田 英臣 | 池田 正之 |
| 加藤 隆一 | 白須 泰彦 | 黒岩 幸雄 | 井村 伸正 |
| 佐藤 哲男 | 渡辺 民朗 | 高橋 道人 | 榎本 眞 |
| 小野寺 威 | 遠藤 仁 | 菅野 盛夫 | 黒川 雄二 |
| 鎌滝 哲也 | 赤堀 文昭 | 土井 邦雄 | 長尾 拓 |
| 福島 昭治 | 津田 修治 | 吉田 武美 | 堀井 郁夫 |
| 大野 泰雄 | 上野 光一 | 山添 康 | |

【功労会員】

| | | | |
|-------|-------|-------|-------|
| 高仲 正 | 前川 昭彦 | 佐藤 温重 | 安田 峯生 |
| 菊池 康基 | 大沢 基保 | 今井 清 | 降矢 強 |
| 玄番 宗一 | 唐木 英明 | 仮家 公夫 | 暮部 勝 |
| 野村 護 | 牧 栄二 | 三森 国敏 | 佐神 文郎 |
| 遠山 千春 | 小野寺博志 | 杉本 哲朗 | 西田 信之 |
| 中村 和市 | 永沼 章 | 姫野誠一郎 | 眞鍋 淳 |

【賛助会員】

●ダイヤモンド

(株)新日本科学

●プラチナ

第一三共(株)

●ゴールド

旭化成ファーマ(株)

アステラス製薬(株)

EAファーマ(株)

エーザイ(株)

大塚製薬(株)

花王(株)

科研製薬(株)

協和キリン(株)

三栄源エフ・エフ・アイ(株)

(株)三和化学研究所

(株)資生堂

昭和電工(株)

(一財)生物科学安全研究所

千寿製薬(株)

大日本住友製薬(株)

武田薬品工業(株)

中外製薬(株)

(株)DIMS 医学研究所

東レ(株)

日本香料工業会

ファイザー(株)

扶桑薬品工業(株)

Meiji Seika ファルマ(株)

(株)薬物安全性試験センター

Charles River

あすか製薬(株)

(株)安評センター

(株)イナリサーチ

(株)LSIM 安全科学研究所

小野薬品工業(株)

一般財団法人化学物質評価研究機構

杏林製薬(株)

興和(株)

サントリー-MONOZUKURI エキスパート(株)

塩野義製薬(株)

シミックファーマサイエンス(株)

住友化学(株)

ゼリア新薬工業(株)

大正製薬(株)

大鵬薬品工業(株)

田辺三菱製薬(株)

帝人ファーマ(株)

トーアエイヨー(株)

(一社)日本化学工業協会

日本新薬(株)

富士フィルム(株)

(株)ボゾリサーチセンター

持田製薬(株)

ライオン(株)

【役員】(2020～2021年度)

| | | | |
|-----|-------|-------|-------|
| 理事長 | 菅野 純 | | |
| 理事 | 青木 豊彦 | 上原 孝 | 小野 敦 |
| | 鍛冶 利幸 | 北嶋 聡 | 熊谷 嘉人 |
| | 古武弥一郎 | 児玉 晃孝 | 小林 章男 |
| | 佐藤 雅彦 | 鈴木 睦 | 高橋 祐次 |
| | 角崎 英志 | 苗代 一郎 | 平林 容子 |
| | 藤原 泰之 | 宮脇 出 | 森 和彦 |
| | 吉成 浩一 | | |
| 監事 | 天野 幸紀 | | |
| | 務台 衛 | | |

【学術年会長】

第49回(2022年)石塚真由美

第50回(2023年)北嶋 聡

【委員会】(2020～2021年度)

| | | |
|-------------------|-----|-------|
| ●総務委員会 | 委員長 | 高橋 祐次 |
| ◆連携小委員会 | 委員長 | 北嶋 聡 |
| ◆評議員選考小委員会 | 委員長 | 佐藤 雅彦 |
| ◆名誉会員および功労会員選考委員会 | 委員長 | 高橋 祐次 |
| ◆指針値検討小委員会 | 委員長 | 広瀬 明彦 |
| ◆企画戦略小委員会 | 委員長 | 宮脇 出 |

| | | |
|--------|------|-------|
| ●財務委員会 | 委員長 | 青木 豊彦 |
| | 副委員長 | 森 和彦 |

| | | |
|------------------------|------|-------|
| ●編集委員会 | 委員長 | 鍛冶 利幸 |
| | 副委員長 | 古武弥一郎 |
| ◆JTS編集委員会 | 委員長 | 鍛冶 利幸 |
| | 副委員長 | 古武弥一郎 |
| ◆FTS編集委員会 | 委員長 | 永沼 章 |
| ◆Executive Editor 小委員会 | 委員長 | 永沼 章 |
| ◆田邊賞選考小委員会 | 委員長 | 諫田 泰成 |

| | | |
|------------|--------|-------|
| ●教育委員会 | 委員長 | 鈴木 睦 |
| ◆生涯教育小委員会 | 委員長 | 鈴木 睦 |
| ◆基礎講習会小委員会 | 委員長 | 橋本 清弘 |
| ◆認定試験小委員会 | 委員長 | 福島 民雄 |
| | アドバイザー | 古川 賢 |

| | | |
|------------------|-----|-------|
| ●学術広報委員会 | 委員長 | 児玉 晃孝 |
| ◆学会賞等選考小委員会 | 委員長 | 堀井 郁夫 |
| ◆佐藤哲男賞選考小委員会 | 委員長 | 熊谷 嘉人 |
| ◆特別賞等選考小委員会 | 委員長 | 熊谷 嘉人 |
| ◆技術賞選考小委員会 | 委員長 | 宮脇 出 |
| ◆日化協 LRI 賞選考小委員会 | 委員長 | 北嶋 聡 |
| ◆学術小委員会 | 委員長 | 石塚真由美 |
| ◆広報小委員会・HP 担当 | 委員長 | 児玉 晃孝 |

★その他関連の委員会

| | | |
|-------------|-------------------------------------|-------|
| ○IUTOX 担当 | | |
| | IUTOX Executive Committee, Director | 熊谷 嘉人 |
| | IUTOX Nominating Committee, Chair | 菅野 純 |
| ○ASIATOX 担当 | | |
| | ASIATOX Council | 小椋 康光 |
| ○日本学術会議担当 | | |
| | 委員 | 石塚真由美 |

2021年10月1日 印刷

2021年10月1日 発行

発行人 菅野 純

編集人 鍛冶利 幸

発行所 一般社団法人日本毒性学会

学会事務局 〒100-0003 東京都千代田区一ツ橋 1-1-1

パレスサイドビル

(株)毎日学術フォーラム

一般社団法人日本毒性学会事務局

TEL (03) 6267-4550 FAX (03) 6267-4555

E-mail : jsotq@jsot.jp

振替 00150-9-426831

<http://www.jsot.jp>

印刷所 株式会社 センキョウ

〒983-0035 仙台市宮城野区日の出町二丁目4-2

TEL (022) 236-7161